

Corporate Social Responsibility Report 2008

アンリツCSR報告書2008



「あるべき姿」の
実現に向けて

Anritsu

アンリツでは、CSR (Corporate Social Responsibility : 企業の社会的責任) を、『企業活動のプロセスに社会的公正性や環境への配慮などを組み込み、ステークホルダー (株主、従業員、顧客、環境、コミュニティなど) に対しアカウンタビリティを果たしていくこと。その結果、経済的・社会的・環境的パフォーマンスの向上を目指すこと』と定義しています。

目次

1	目次、編集方針
2	経営理念・ビジョン・方針、企業行動憲章
3	ごあいさつ
4	アンリツCSR活動のあるべき姿
5-6	『アンリツCSR活動のあるべき姿』に向けた進捗
7-8-9	ハイライト (達成像1) : 安全・安心で快適な社会の構築
10	顧客満足 お客さまとの対話 : グローバルWebの構築
11	顧客満足 お客さまとの対話 : 営業教育の強化
12	ハイライト (達成像2) : グローバル経済社会との調和
13	誠実な企業活動 企業倫理・コンプライアンスへの取り組み
14	情報資産の管理 情報セキュリティ管理、BCP
15-16	企業情報の発信 株主・投資家、仕入先・協力会社との対話
16	人権尊重 職場における人権の尊重
17	従業員の尊重 人材育成、キャリア支援
18	従業員の尊重 労働安全衛生
18-19-20	社会貢献活動 企業市民としての取り組み
21	ハイライト (達成像3) : 地球環境保護の推進
22	地球環境保護 地球環境とともに
23	地球環境保護 エコマネジメント、エコマインド
24-25	地球環境保護 エコオフィス、エコファクトリー
26	地球環境保護 エコプロダクツ : 環境に配慮した製品開発
27	地球環境保護 エコプロダクツ : エクセレント エコ製品
28	地球環境保護 環境負荷マスマバランス、環境会計
29-30	2007年度目標達成度、2008年度目標設定
31	ステークホルダーの皆さまのご意見・ご感想
32	グローバル・コンパクトの原則とアンリツの取り組み
33	第三者評価、編集担当より
34	会社および事業概要
別紙	CSR報告書アンケート用紙

編集方針

2008年版アンリツCSR報告書は、ステークホルダーの皆さまのご意見をもとに、次の方針に沿って編集しました。

- ① アンリツグループが実現に向けて取り組んでいる『アンリツCSR活動のあるべき姿 (達成像)』に沿って報告内容を新たに整理し、個々の活動を全体の枠組みの中に位置づけました。
- ② それぞれの活動について、背景・理由、取り組み内容、成果、および今後の課題を示し、管理サイクル (PDCA) に沿った報告内容としています。
- ③ 昨年度に引き続き、グローバルな活動の状況を報告することに努めました。
- ④ GRI ガイドライン第3版が掲げる報告原則「重要性 (マテリアリティ)」を参考として、報告内容の重点化に努めました。
- ⑤ アンリツの事業の全体像をご理解いただきながら、より多くの方々に読んでいただける報告書を目指しました。

*1 CSR報告書では、アンリツの活動内容のうち、社会および環境との関わりを中心に報告しています。(財務面の詳細については、当社ホームページ www.anritsu.co.jp/J/IR/ またはアニュアルレポートをご参照ください)

*2 地球環境保護については、詳細な情報を掲載したホームページ www.anritsu.co.jp/J/Environment/ を用意しています。

活動報告対象期間

2007年4月1日～2008年3月31日
(一部には、対象期間前後の活動内容も含まれます)

活動報告対象組織

報告内容については、項目によりアンリツ (株) の場合と、アンリツグループ会社を含めている場合があります。

以下のルールで区別しています。

“アンリツ”または
“アンリツグループ” ……記事内容がアンリツ (株) およびグループ会社全体の場合
“アンリツ (株)” ……記事内容がアンリツ (株) 単体の場合
“グループ会社” ……記事内容がグループ会社またはその一部の場合

発行日 : 2008年7月14日

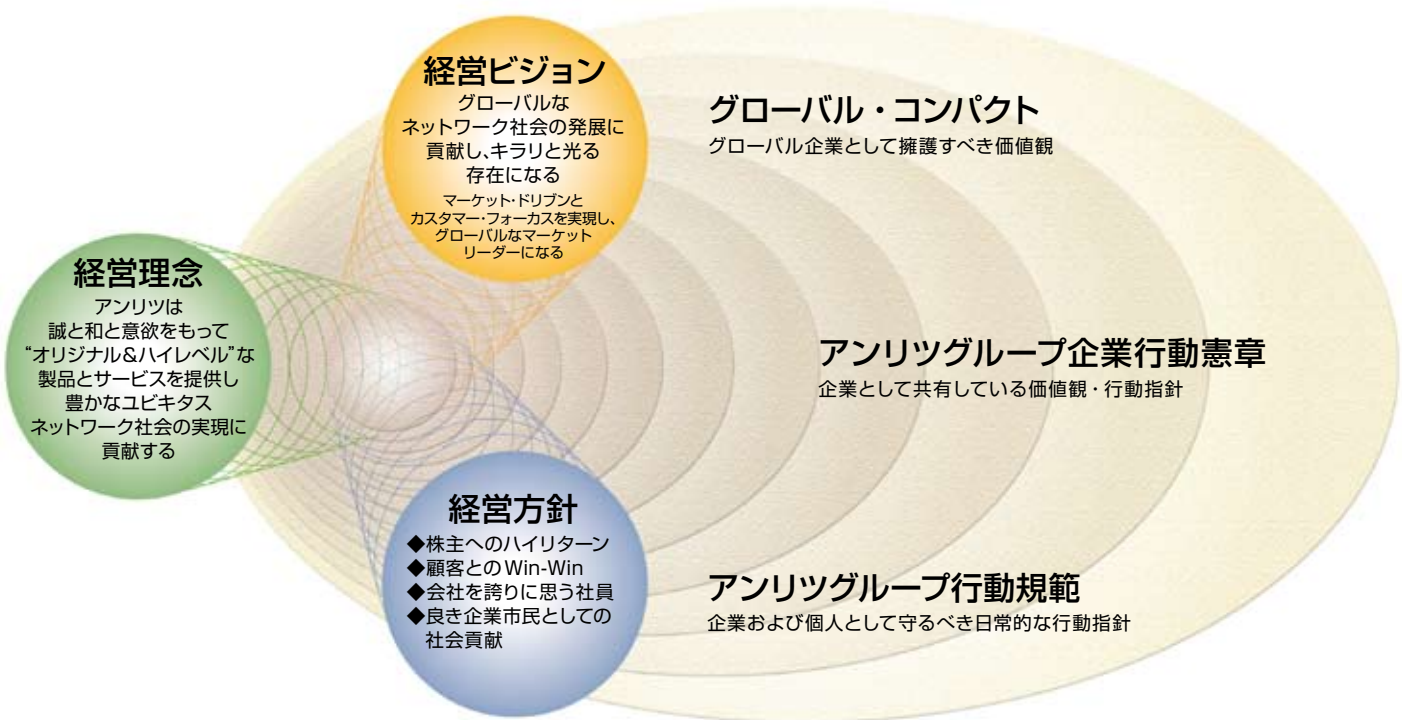
お問い合わせ先 : アンリツ (株)
コーポレートコミュニケーション部
CSR推進チーム

TEL : 046-296-6514

FAX : 046-225-8384

URL : <http://www.anritsu.co.jp/>
(次回は2009年7月に発行予定です)

アンリツは、経営理念・ビジョン・方針が掲げる基本原則を実践するとともに、グローバル企業としての価値観を示すグローバル・コンパクト、より具体的な価値観・行動指針を示すアンリツグループ企業行動憲章および行動規範を遵守することを通して、CSR活動を推進しています。



アンリツグループ企業行動憲章

2005年4月1日 制定

アンリツグループは、誠と和と意欲をもって、“オリジナル&ハイレベル”を核とした知の製造業によるソリューションの提供を通して企業価値を向上し、社会全体から成長・発展を望まれる企業となることを目指します。株主・投資家、顧客、取引先、従業員、地域社会など、すべての関係者の皆さまに対し誠意を尽くし、個々を尊重し、各々との和を大切にしつつ、企業の社会的責任を果たすため、意欲的に行動します。

- 顧客満足： 社会的に有用な製品・サービスを、品質、安全、環境に十分配慮して開発、提供し、顧客の満足と信頼を獲得します。
- 誠実な企業活動： 公正、透明、自由な競争を行うとともに、政治、行政そして市民および団体と、健全かつ正常な関係を維持します。
- 企業情報の発信： 企業情報を公正かつ適時に開示し、企業活動の透明性を高めます。
- 情報資産の管理： 個人情報、顧客情報を含む情報資産の適正な管理を行います。
- 人権尊重： すべての人々の人権を尊重し、人種、性別等による差別的取り扱いや、個人の尊厳を損なう行為を行いません。
また、児童労働、強制労働を認めません。
- 従業員の尊重： 従業員一人ひとりの個性を尊重し、能力を十分に発揮でき、安全で生き生きと働ける環境を実現します。
- 社会との調和： 国際社会や地域社会の文化や慣習を尊重し、その発展に貢献する経営を行います。
- 地球環境保護： 地球環境への負荷を低減し、持続可能な社会づくりに貢献します。
- 社会貢献活動： 良き企業市民として積極的に社会貢献活動を行います。

経営者は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範のうえ、実効ある社内体制の整備を行い、企業倫理の徹底を図ります。万一、法令に違反するような事態が発生したときには、経営者自らが問題解決にあたり、原因究明と再発防止に努めます。また、社会への迅速かつ的確な情報の公開と説明責任を遂行し、権限と責任を明確にして、自らを含めて厳正な処分を行います。

経営品質向上に向けた CSR活動を推進

私たちは、アンリツグループ企業行動憲章に示される今後の活動の方向性をより明確化・具体化するため、2006年度に中期的な達成像『アンリツCSR活動のあるべき姿』を描き、昨年皆さまにご報告いたしました。それは、安全・安心で快適な社会構築への貢献を核としながら、グローバルな事業活動における経済社会との調和および地球環境保護の推進をはかるというものです。そして、私たちは、『あるべき姿』の実現のためにはステークホルダーとのコミュニケーションが不可欠であることを再確認しました。

今年の報告書は、『あるべき姿』に向けたアンリツの取り組みの進捗状況をお伝えするものです。取り組みは着実に成果をあげている一方で、まだまだ課題も数多く残されていると認識しています。何が達成でき、何ができなかったのかを率直にお伝えしながら、皆さまとともに取り組みを進めていければと願っております。

私たちが掲げた目標を達成していくためには、社会や環境への配慮が、より自然な形で事業プロセスに組み込まれていくことが肝要です。そして、これは組織的な学びを通して経営の品質を高めることにほかなりません。アンリツは、経営品質向上に向けたCSR活動をさらに推進し、新たな挑戦を続けながら、持続可能な社会の構築に貢献してまいります。

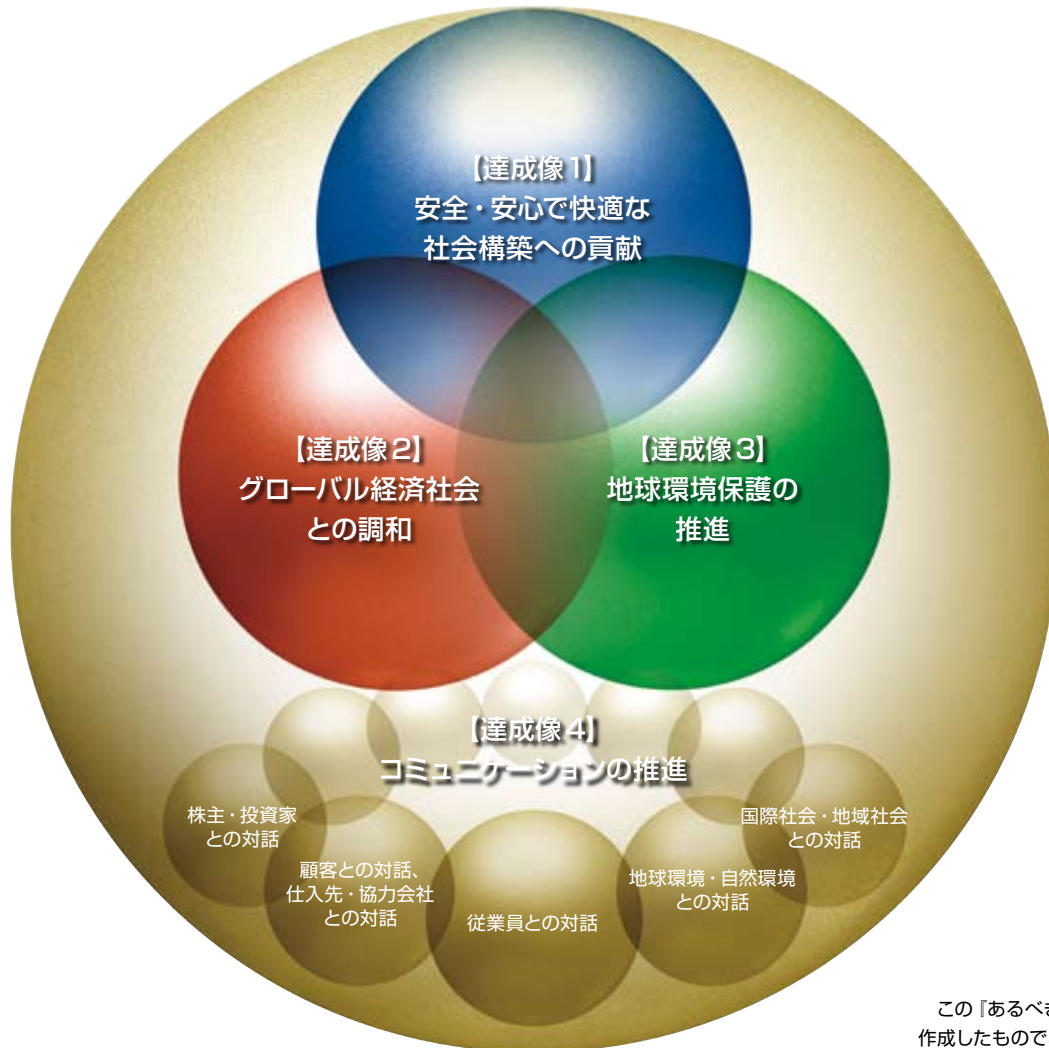
代表取締役社長

戸田 博道



経営品質向上に向けたCSR活動

社会と環境への配慮を事業プロセスに組み込む



この『あるべき姿』は、2006年度に作成したものであり、2008年度以降に見直す予定です。

アンリツCSR活動のあるべき姿（達成像）

【達成像1】安全・安心で快適な社会構築への貢献

アンリツでは、オリジナル＆ハイレベルな技術によって、皆さまの安全と安心を守るために働いている、との意識がグループ社員一人ひとりに浸透している。お客さまの声を聴き、その期待を上回る品質の製品・サービスと迅速なサポートをグローバルに提供している。「はかる」技術によって、特に非常時の通信支援、通信障害の予防・保全という分野において、次世代ネットワークを基盤とする社会づくりに貢献している。

【達成像2】グローバル経済社会との調和

アンリツは、グローバルな事業活動において、コンプライアンスとリスク管理を効果的に実施し、誠実な企業であるための基盤を強化している。人権を守ることをその中核に置き、異なる国籍・性別・文化などを持つ従業員がより働きやすい職場環境をつくり、特性・能力を活かせる人材育成を進めている。また、仕入先・協力会社との密接な協力を通じ、企業を超えた供給体制においても社会的責任を十分に果たしている。さらに、自社の強みを活かし、企業市民として地域で信頼される社会貢献活動を計画的に進めている。

【達成像3】地球環境保護の推進

アンリツは、環境経営理念のもと、環境マネジメントシステム（EMS）を、日本では開発拠点に加えて新たに主要営業拠点にまで拡大している。日本以外では主要開発拠点に定着している。さらに、グローバルに統一した製品アセスメント基準に基づいて、日本においては大部分の製品が環境配慮型製品となっている。日本以外の主要開発拠点からも環境配慮型製品の生産が開始されている。

【達成像4】コミュニケーションの推進

アンリツは、事業活動全体を通して、積極的かつ独自性のある情報開示およびステークホルダーとの対話・パートナーシップによる信頼関係を構築し、CSR活動のPDCAサイクルにおいて、コミュニケーションの成果を効果的に反映させている。

『アンリツCSR活動のあるべき姿』に向けた進捗

アンリツでは、「アンリツらしい」CSR活動をさらに追究し、アンリツグループ企業行動憲章に示される今後の活動の方向性をより明確化・具体化するため、中期的な達成像『アンリツCSR活動のあるべき姿』を描きました。その進捗の状況と今後の課題をご報告します。

アンリツCSR活動の
あるべき姿
(達成像)



達成像1について

- お客さま満足に努めた従業員を表彰する、アンリツ・カンパニー（アメリカ）のCS Prize制度を参考に、日本でもCS報奨制度を導入しました。2008年度から運用します。
- CS調査を通して抽出された課題であるグローバルWebの構築を進めます。(2008年度に提供予定)→p10
- お問い合わせへ24時間以内に回答するWeb窓口をアジア地域に導入するとともに、サービス業務効率を改善し、修理、校正品の納期を短縮しました。今後は修理・校正平均期間5日を目指します。

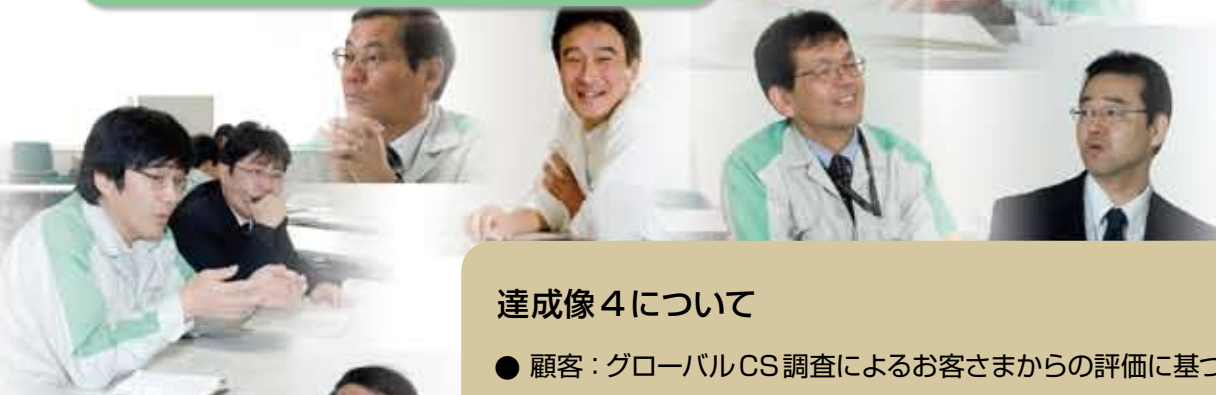
達成像2について

- 内部統制システムの構築を世界各地の拠点で進め、2008年度から評価・監査を実施していきます。→p12
- 『調達基本方針』および『お願い事項』を主要な仕入先・協力会社に伝達・周知するとともに、国内外グループ会社へ水平展開しました。2008年度は伝達・周知の対象拡大に取り組みます。→p15,16
- グローバル社員育成プログラムにより、異なる国籍・文化を背景に持つ従業員が特性・能力を活かせる人材育成を進めています。また、各国における職場環境の整備に取り組んでいます。→p17
- 社会貢献活動の重点課題（青少年教育との連携、地域社会への貢献、環境推進活動）を、国内において設定しました。2008年度はこれらの課題を日本以外にも水平展開します。→p18,19,20

※→の後の数字は、関連記事の該当ページを示します。

達成像3について

- 2006年度までに環境マネジメント体制（EMS）を構築した国内外の主要生産拠点（日本、アメリカ、イギリス）に続き、2008年度は国内営業拠点においてもEMSの構築を開始し、ISO 認証取得予定です。また、アンリツ・エーエス（デンマーク）も、EMSの構築に向けた準備を進めます。→p23
- 2007年度は、日本で開発した新製品のうち74%の機種が環境配慮型製品でした。また、グローバル製品アセスメント基準を作成しました。2008年度は、海外サイトで環境配慮型製品を開発予定です。→p26,27



達成像4について

- 顧客：グローバルCS調査によるお客さまからの評価に基づき、改善活動を実施しました。→p10
- 従業員：倫理・コンプライアンス、情報管理、環境などに関する意識調査を国内において行ったほか、各地域で従業員との対話を実施しました。→p13
- 株主・投資家：国内の個人投資家へのアンケート調査に基づき、開示内容の充実化を進めました。→p15
- 地域社会：アンリツ（株）本社所在地をはじめとする各地域の要請に応えて、さまざまな活動を実施しました。→p18,19,20
- 2008年度は、ステークホルダーとのコミュニケーションの成果を、より効果的に事業活動へ反映させます。→p31,32

“つながる”を支えるマザーテクノロジー

私たちの生活に欠かせない携帯電話やインターネット。今、情報通信の最前線では、遠隔医療やオンラインバンキング、IPテレビなど、日常の生活や仕事をより快適で豊かなものにするサービスが大きな注目を集めています。これら次世代の通信サービスのマザーテクノロジーが、アンリツの“測る”技術。その役割を一言で表すと、携帯電話や伝送装置の動作、ネットワークの性能、通信サービスの品質などを評価すること。確かにつながる。確かに伝わる。アンリツの“測る”技術は、世界中の人たちに快適なコミュニケーションをお届けしています。

通信、公共監視、そして食品・医薬品…。アンリツはこれら日常生活に欠かせない分野で、環境に配慮しながらさまざまな製品・サービスを提供し、安全・安心で快適な社会づくりに貢献しています。



毎日の生活を確かに支えるアンリツの技術
安全・安心で快適な社会の構築

**ハイライト
(達成像1)**

暮らしの安全・安心を見守る システムテクノロジー

地震や水害など毎年大きな災害に見舞われる日本列島。被害の防止・軽減は国家的な課題となっています。アンリツグループの一翼を担うアンリツネットワークス(株)は、道路・河川や上下水道など、各種遠隔監視システムを提供しています。2008年には、同社のスイッチやルーターが洞爺湖サミットの通信システムで使用されています。また、株式会社NTTデータ殿と共同で、自治体と住民をネットワークで結び、自治体からの避難指示や住民からの安否確認など、双方向のコミュニケーションを実現する『双方向型減災コミュニケーションシステム』も開発。幅広い分野で、暮らしの安全と安心に貢献しています。





■NFLの熱戦を支えるハンドヘルド測定器

アメリカの国民的スポーツ、フットボール。鍛え上げられた肉体がぶつかり合うスタジアムでは、試合中の監督と選手間の通信や医療スタッフ、警備スタッフへの連絡、テレビ・ラジオ放送などのために無線通信が利用され、400チャンネルを超える電波が飛び交っています。いかにこれらの周波数を管理し、円滑な運営を行うか？

この課題を解決するためにナショナルフットボールリーグ(NFL)が採用したのが、アンリツのコンパクトスペクトラムアナライザMS2721B。NFLはこの測定器を32のスタジアムに配備し、電波の混信状態の調査や障害解析などに活用しています。



■ブラジル30周年、中国20周年

アンリツ(株)は、欧米のみならず、新興諸国で長年にわたり計測器事業を展開しています。2007年には、ブラジルのAnritsu Eletrônica Ltda. が30周年を、中国のAnritsu Company Ltd. は20周年を迎えました。さらに、インドやメキシコ、アラブ首長国連邦にも拠点を構え、これらの国々の通信インフラの整備に役立っています。より多くの国々で快適な通信環境の実現に貢献し、国家間の通信格差を解消する。これが、アンリツのグローバルビジネスの根幹です。



お口いっぱいの安心をお届けする 異物検出技術

もし、あなたやあなたの大切な家族が食べたその食品に危険な異物が潜んでいたら…。私たちが口にする食品に今必要なことは、厳重な品質検査。アンリツグループで産業機械事業を展開しているアンリツ産機システム(株)は、食品などの製造ラインで使用する『異物検査機器』や『質量検査機器』などを提供しています。たとえば、X線異物検出機。骨やプラスチックなどの柔らかい異物から細い針金など線状の異物まで検出できるため、世界各国の食品メーカーで活用されています。また、サンプル食品の無料テストサービス、異物検出技術セミナーも実施するなど、製品開発にとどまらない取り組みも進めており、食卓の安全と安心を支えています。



毎日の生活を確かに支えるアンリツの技術 安全・安心で快適な社会の構築

ハイライト
(達成像1)

アンリツは、地球温暖化を防止し、安全・安心で快適な社会の構築のために、小型・軽量化を通して省エネルギー・省資源を事業コンセプトに取り入れています。その具体例を次に示します。

■環境配慮型製品のグローバル開発

環境配慮型製品の開発は、企業の責務であり、アンリツでは、計測器の小型化や複数の機種で提供している機能のワンボックス化を進めています。その代表例が、光ファイバーの保守用測定器として提供しているネットワークマスタシリーズです。従来、この分野で提供していたハンドヘルド測定器（アクセスマスタシリーズ）をさらに小型・軽量化。パームサイズ化を実現し、使用時のCO₂排出量を約35%削減しました。



■通信ネットワークの消費電力削減

音声や動画、TV・ラジオなど、あらゆる情報がデジタル化され、IP技術により、距離や時間に関係なく送受信される今日、IT機器の消費電力量は増加の一途をたどっています。こうした中、アンリツネットワークス(株)では、音声やデータ、動画が混在する通信ネットワークにおいて、各種データに必要な帯域を効率よく割り当てることができる帯域制御装置を提供。ネットワークの有効活用によるシステムの肥大化を抑制でき、消費電力削減に貢献しています。



■電子部品製造の省エネルギー化

携帯電話やデジタルカメラなどは年々コンパクトになり、機能も豊富になっています。これらデジタル製品に搭載されるプリント基板の生産では、ミクロの世界の実装技術（電子部品を基板に取り付ける技術）が必要とされており、歩留まりの悪化がエネルギーの浪費に直結します。2008年4月に設立されたアンリツプレジジョン(株)は、プリント基板に電子部品を搭載するために印刷されるクリームはんだの状態を3次元で測定できる印刷はんだ検査機を提供。生産ラインでの無駄や不良品の発生を抑え、電子部品の生産に要するエネルギーの削減に貢献しています。





アンリツは、お客さまの声に真摯に耳を傾けながら、お客さまの要求に十分にお応えできるよう、Webをさらに改善するとともに、双方向のコミュニケーションの推進にも力を注いでいます。

2007年度のCSR活動は、前年と同じくグローバルCS調査活動をベースに推進しました。顧客満足度を数値化したCS指数は向上したものの、依然として要望の多い「Webの改善」と「顧客との双方向コミュニケーション」の2項目に的を絞った活動を行いました。

Webの改善

Webについては、改善を進めてきましたが、お客さまの期待に追いつけない状態が続いており、この状態を打破するために、外部から招請したグローバル・ウェブ・ディレクター（本ページのコラム参照）を中心に協働体制を作り、お客さまのグローバルな一元化への要求を満たす改善を推進しています。

市場のニーズや現状サイトの分析を行い、新しいアーキテクチャーのWebを2008年下半期に公開する予定です。

また、アンリツ・カンパニー（アメリカ）では専任の担当者を置き、顧客満足の視点から、複数のWeb改善プロジェクトに取り組んでいます。新しいアーキテクチャーには、これらの顧客向けの活動機能も幅広く取り入れていく予定です。

顧客との双方向コミュニケーション

お客さまとの双方向コミュニケーションの推進については、EMEA（ヨーロッパ・アフリカ・中東）地区をはじめ積極的に活動しています。EMEA地区では、顧客の方々からアンリツに対する期待を生々の声で聞く企画（次ページのコラム参照）と、CSR報告書そのものを営業教育に活かすという企画を定常化しています。

さらに大手顧客の監査からも多くの期待が寄せられており、特にグローバルな改善計画（品質、納期など）の進め方やWebの改善についての要求が高まっています。

CSニュースレターではこれらの施策の内容や、上述の改善計画を公開するなど、透明性が高く、しかも具体的な改善の状況がわかる活動を続けていきます。



ご活用いただける グローバルWebを 目指して

Anritsu Company
Global Web Director
Tomoko Nishimura

お客さまの視点に立って、真にお客さまのお役に立つグローバルWebを構築することが、私のミッションです。このため、グローバルCS調査と世界中のアンリツの拠点への訪問調査を行い、そこで浮き彫りになった課題に基づいて、新たなグローバルWebの構築を進めています。現在目指しているのは、Webのデザインや操作性などのLook & Feelを統一してアンリツの「顔」を一つに揃えるとともに、たとえばダウンロードできるソフトウェアのバージョンは同一にするなど、グローバルで要求されるコンテンツについては同じものを用意し、国を越えてシームレスなWebにすることです。そのうえで、多言語化を含めて、各地域の市場ニーズに即したコンテンツを迅速に掲載できる仕組みを構築していきます。さらに、一つの検索キーワードで事業部横断的なオール・アンリツのソリューションを提示するなど、お客さまが必要としている情報をスピーディーにスムーズに提供できるユーザーフレンドリーなシステム構築も進めています。2008年第4四半期中の公開を目指しています。

グローバルに一元化したWebを構築中





EMEAでの取り組み

『リフレッシュ セールス・トレーニング』

アンリツは、顧客満足を高めるために、世界各地の営業担当者を対象に、地域別に幅広いトレーニングプログラムを実施しています。2007年10月に、スペインのエステポナで開催したEMEAの『リフレッシュ セールス・トレーニング』もその一例です。

期間中、全体会議とテーマ別トレーニングプログラムでトータル75のセッション、25のデモパッケージと140のデモセッション、3つの「展示」デモを行い、参加者は170人に上りました。全体会議では、CSR全般のほか、環境、品質、技術、支援、輸出管理など、ますます重要度を増している諸問題も討議しました。また、顧客企業（通信および無線通信設備業界）から二人のゲストスピーカーを迎え、今後のCS向上に向けた意見交換を行いました。



『リフレッシュ セールス・トレーニング』
受付（上）、全体会議（下）



日本での取り組み

CS教育、若手営業員育成のための基礎講座

アンリツ（株）は元ザ・リッツ・カールトン大阪 営業統括支配人 林田 正光様をお迎えし、「満足を超えた感動サービスが、ロイヤルカスタマーを創る」と題して、講演会を実施しました。アンリツ（株）および国内グループ会社の多くの従業員が聴講し、CSに対する意識が高まりました。

また、アンリツ（株）では2007年度は、営業部門とマーケティング部門が連携し、若手営業員向けの基礎講座を開催しました。5月には入社2～3年の営業員を対象として『電波測定の基礎トレーニング』を実施しました。また6月にはカタログの読み方、7月には光通信の基礎に関するトレーニングを行いました。今後もこうした講座を随時開催し、若手営業員の育成に努めていきます。



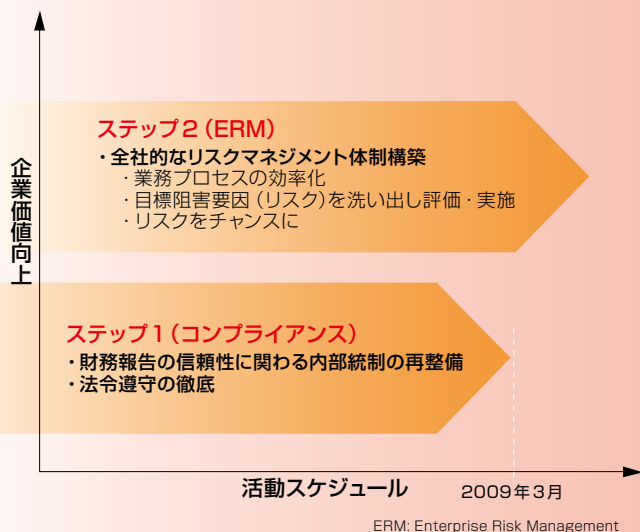
オール・アンリツとして さらなる発信を

Anritsu EMEA Limited
Director of Marketing
Jonathan Borrill

お客さまにパートナーとして認めてもらい、末永くお付き合いしていただくためには、営業担当者がアンリツの全体像をしっかりと理解することが重要です。中でも、CSRについては世界各国のお客さまの関心が高まっていることから、『リフレッシュ セールス・トレーニング』では、参加者全員にCSR報告書を配布し、情報を共有しました。さらに、社長、事業部長など経営層とのコミュニケーションの機会をつくったことでビジョンや方針について意識の統一が図れ、オール・アンリツとしてお客さまに接する上で大変効果的だったと思います。また、お客さまの生の声を聞くために、二人のゲストスピーカーをお招きし、通信業界の動向やアンリツへの期待などをお話いただきました。ゲストスピーカーにご意見を伺いながら感じたことは、製品や技術だけでなくとどまらず、環境配慮、サービス品質などの向上に向けた取り組みについての情報発信が求められており、トータルなアンリツ像をお伝えする機会をつくる必要があります。今後も多くのアンリツ社員が参加するトレーニングでは、お客さまと意見を交換できる場を設けるとともに、日々のビジネスプロセスでも、積極的にオール・アンリツとしてのメッセージを発信していきます。



若手営業員向け基礎講座



アンリツは、内部統制システムの構築がグローバルな事業展開に不可欠であると捉え、グループ全体で推進しています。経営革新・企業価値向上につながる取り組みへとステップアップさせていくために、組織全体としての意識向上（企業風土の醸成）を重視した活動を行っています。



内部統制を通じた経営革新に向けて グローバル経済社会との調和

ハイライト
(達成像2)

2007年度取り組み

アンリツ（株）では、経営トップから従業員まで含め、全階層に内部統制への意識づけを実施しました。特に、内部統制の成否の鍵を握る幹部職に対しては、アンケートを実施し、その結果から課題を設定したことに加え、内部統制に関する徹底した議論を実施しました。

こうした啓発活動と並行して、各業務プロセスの文書化やチェックリストによるIT統制状況の確認など、内部統制システムの整備を進めました。

また、グループ会社における内部監査チームの設置を進めました。2007年11月にはアンリツグループ全体の内部統制推進者会議を開催し、内部統制の考え方や評価ツールを共有しました。こうした取り組みの結果、内部統制を担うキーパーソンが世界各地の拠点で育ってきています。

今後の取り組み

内部統制システムを運用する初年度にあたる2008年度は、内部監査部門が外部監査人と協力して、評価・監査を実施していきます。また、グループ会社との連携をさらに進め、グローバルな調整・指導はキーパーソンとのFace to Face ミーティングなどによって実施します。

今後、内部統制を通して経営革新を進めていくためには、自律的な企業風土をさらに醸成していくことが必要です。アンリツグループ全体を巻き込むコミュニケーションを進め、すべての階層における意識向上を図っていきます。

内部統制システム構築のさらなる発展を

アンリツ・カンパニー（アメリカ）の決算・財務報告はアンリツグループの連結決算において大きな部分を占め、その正確性を保つことは私たちの重要な役割だと認識しています。J-SOX対応として、これまで業務プロセスの文書化や潜在的な財務報告リスクの洗い出しなどを行ってきましたが、今後はそれにとどまらず、ビジネスリスクにもフォーカスを当てた内部統制システムの構築に発展させたいと考えています。



私たちはJ-SOXプロジェクトメンバーとして、これまで社内の多くの業務プロセスについて担当者にインタビューを行い、業務プロセスの文書化やリスクの洗い出しを進めてきました。私たちは、この成果を組織内の不正行為の防止、ヒューマン・エラーの抑制といった業務改善に発展させることが、財務報告の正確性をはじめアンリツ・カンパニーの内部統制システム全体の強化につながると確信しています。

Anritsu Company
Internal Auditor
Brian Kobata



Anritsu Company
Secretary and General Counsel
Steve Vonderach

倫理・法令を遵守した健全な企業行動を推進するため、企業倫理・コンプライアンス推進体制を構築・整備し、倫理意識を向上させるためのさまざまな施策を継続的に実施しています。

コンプライアンス推進施策

①アンリツグループ行動規範・ケーススタディシートの発行

・『アンリツグループ行動規範』

事業活動におけるコンプライアンス実践の指針です。グループ全体のコンプライアンス推進のため、国内アンリツグループ会社で配布し、日本以外においても策定を支援しています。



中国語版の行動規範

・『ケーススタディシート』(事例集)

毎月、具体的事例について簡単な解説・留意事項を記した事例集をイントラネットへの公開・ポスター掲示の形で発行し、国内アンリツグループにおける教育ツールとして活用しています。



②教育・啓発

倫理意識の向上を目的として、国内アンリツグループにおいて各種の教育啓発活動を実施しています。

- ・階層別教育（新入社員・新任幹部職等）
- ・各委員会・部門による個別・専門教育
- ・Web教育
- ・コンプライアンス推進イベント

（講演会、ビデオ教育など、さまざまな研修コンテンツを用意した全社的事件。年2回開催）



コンプライアンス推進強化週間運動(4月)

2007年度は、(財)21世紀職業財団の藤原香子氏によるセクハラに関する講演などを開催しました。



企業倫理月間運動(10月)

日本経団連の活動に合わせた取り組みで、2007年度は情報セキュリティ大学院大学の内田勝也教授による情報セキュリティマネジメントに関する講演などを開催しました。



中国でのCSR教育・研修

2008年3月、全マネージャーを対象とした、北京・上海・香港などでコンプライアンスをはじめとするトレーニングを行いました。

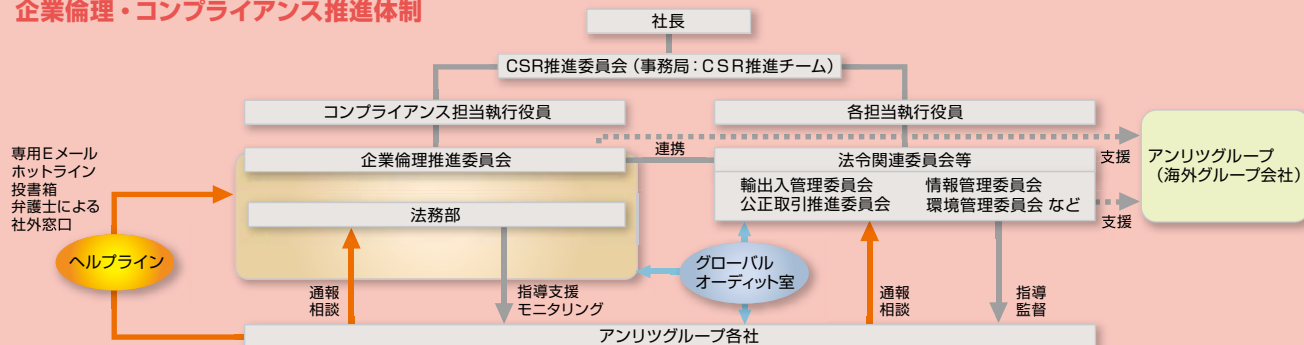
③モニタリング

コンプライアンス体制の定着状況を確認するため、主にWebを活用して国内アンリツグループの従業員、派遣従業員、仕入先・協力会社の従業員などを対象にした倫理アンケートを実施しています。2007年からは問題点をより具体的に抽出できるよう設問を工夫し、得られた結果を今後の活動のために丁寧に分析しています。また、倫理アンケートを『ヘルプライン』を補完する仕組みとしても位置づけ、緊急の課題には関係部門と連携して迅速に対応しています。

④ヘルプライン

社内の倫理法令違反の未然防止、より働きやすい職場環境づくりを目指して、内部からの報告・通報・相談を受け付ける『ヘルプライン』とあわせて、社外窓口（弁護士・カウンセラー）も設けています。

企業倫理・コンプライアンス推進体制

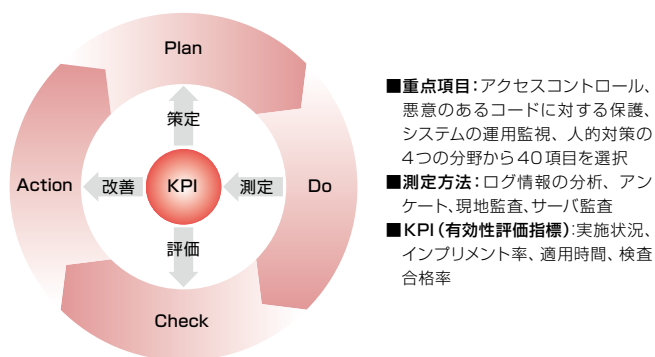




アンリツは、情報セキュリティ管理の新たなフレームワークを2007年度から運用し、重要課題への集中的な取り組みを進めています。また、事業の継続性を確保するために、より幅広い視点からのリスク管理にも取り組んでいます。

有効性評価指標による情報セキュリティ向上

国内アンリツグループでは、2006年度に作成した有効性評価指標に基づくセキュリティ水準の向上を進めました。多岐にわたる管理項目から、定量分析によって特に重要なものを絞り込み、集中的に取り組んでいます。



2007年度は、サーバ管理と営業秘密管理の強化に焦点を置きました。サーバ管理については、サーバの運用監視基準を策定して担当者ごとのばらつきを解消し、監視品質を安定させたほか、ユーザアカウントの統合（パスワード管理の改善）を推進しました。営業秘密については、リムーバブル媒体（USBメモリ）管理を再徹底し、協力会社を対象にセキュリティ実態調査も実施しました。これと並行して、システム管理者や内部監査員向けの専門教育に加え、階層別の一般教育も実施しています。

また、2006年度から実施してきたアジア地域のITインフラ整備を完了し、ウィルス感染やネットワークトラブルのリスクを大幅に減らすことができました。

事業継続計画（BCP）への取り組み

事業継続計画（BCP）は、企業の事業停止リスクが近年急激に増大していることから、世界的に注目されています。

災害・事故などの危機に際して、中核となる事業の継続と早期回復を図るために、まずアンリツ（株）と国内グループ会社においてBCP基本方針の検討を開始しました。社長をBCP発動権限者とする体制のもと、重要業務の抽出、リスクと被害の想定をはじめとする検討を行っています。

2008年度は、全社の経営革新に基づく見直しを行う予定です。

情報システムに関するBCP活動

国内アンリツグループでは、情報セキュリティ分野については、すでにBCP活動を進めてきています。

- ① 事業継続計画の見直し: 2年前に策定した事業継続計画について、主に優先順位と復旧時間の妥当性を見直しました。
- ② 個々の情報システム復旧手順書の作成: すべての重要システムについては復旧手順書の作成が完了しました。今後はすべてのサーバについて進めていきます。
- ③ 実施訓練およびテストの実施: 復旧時間、復旧手順などを評価しました（復旧計画訓練の実施、個々の情報システム復旧テストの実施）。
- ④ 実施手順の改善: システムの復旧手順書を見直し、復旧時間を検証しました。



性弱説のセキュリティを営業機密にも

情報セキュリティ大学院大学
教授 兼 横浜市CIO補佐
博士（工学）
内田 勝也 様

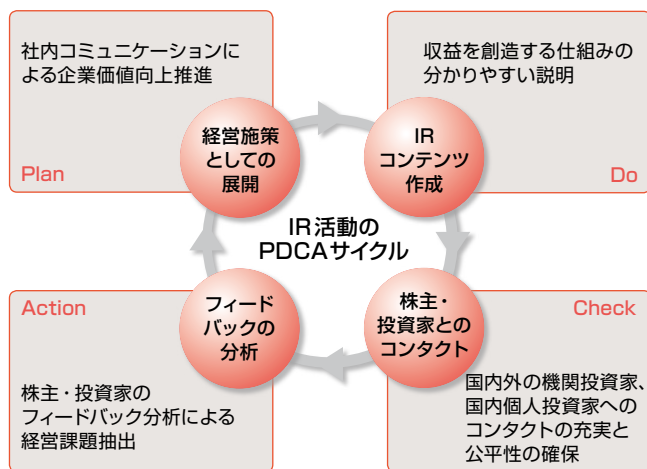
アンリツの情報セキュリティ活動は確かなものになってきており、「営業機密をどう保護するか」など、次のステップに移るべき時期にあると思います。私はセキュリティとは「性弱説」に基づくべきだと考えています。たとえば拾ったUSBメモリの中身をつい覗いてしまうなど、人には弱い心があります。この「でき心」をなくすには、ハード面ではユーザーが意識せずに守られるシステムが有効であり、ソフト面では自分たちの営業機密にはどんなものがあるかまず気づく必要があります。ぜひ日常の業務の中に組み込む形で意識づけけるとともに、可能な部分では環境管理システムなどの他の管理システムとの制度的な統合を進め、経営戦略として組織横断的に取り組んでいただきたいと思っています。

株主・投資家の皆さまのニーズへの的確に応える情報発信を努めるとともに、いただいたご意見をIR活動の改善に積極的に役立てています。また、取引先さまの間では、協力関係に基づくCSR調達の推進を図っています。

株主・投資家とのコミュニケーション

●アンリツ(株)のIR(投資家向け広報)活動

アンリツ(株)は、株主・投資家とのコミュニケーションを通して、企業価値を適正に株価へ反映させ、高い株主満足度を実現することを目指しています。専任部門であるIR推進チームが中心となって、国内外機関投資家への説明活動や個人投資家向け展示会参加、アニュアルレポートや事業報告書等の各種刊行物の発行、ホームページを通した適時情報開示など多彩なIR活動を実施しています。



●個人投資家向けIR活動の強化

アンリツ(株)は一般消費者とは直接の接点がない事業をグローバルに展開しており、その事業構造や収益を創造する仕組み、業績に影響を与える要因を株主の皆さまに正しく理解いただくことが非常に重要だと考えています。

2007年は、国内外の機関投資家の皆さまへの継続的な情報開示に加え、当社の発行済み株式の40%以上を占める国内個人投資家の皆様への情報発信を積極的に行いました。具体的には、右図のように個人投資家の皆さまのご要望をアンケートなどを通して分析し、技術情報以外に開示ニーズの高い営業活動情報などを中心に開示の充実を図りました。

個人投資家向け情報開示の充実

6月 事業報告書: アンケート調査

- どんなイメージをお持ちですか?
- もっと知りたい情報は何ですか?



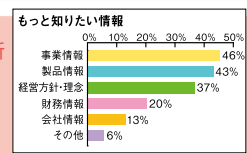
8月 日経IRフェア: 個人投資家との直接対話

- 経営トップと個人投資家とのふれあい
- 展示ブースでの面談による意見交換



9月 アンケート・IRフェア: フィードバック分析

- 事業に関する情報をもっと知りたい
- 高い技術力を持つ会社だが営業活動はよくわからない



12月 半期報告書: 情報開示向上

- 中国における具体的営業活動を紹介



●外部評価

四半期開示への先駆的取り組み、セグメント情報をはじめとする決算短信の定性的情報開示の充実などが評価され、アンリツ(株)は、東京証券取引所より「ディスクロージャー表彰」を受賞しました。また、最先端の通信計測事業のグローバル展開やそれを取り巻く市場環境を分かりやすく表現したアニュアルレポートは、日本経済新聞社「アニュアルレポートアワード2007」で佳作となりました。これらの受賞を契機に、アンリツは、情報開示に対する責任をより強く意識し、携帯電話や次世代通信網(NGN)に関連する計測器、食品の安全を支える産業機械など、投資家の皆さまがふだん直接触れる機会のない事業を分かりやすく表現し、国内外に広がる投資家の皆さまそれぞれの情報ニーズにお応えすることを目指します。

仕入先・協力会社とのコミュニケーション

今日の企業には、自社内だけでなく、サプライチェーンにおいてもコンプライアンス、環境保全、人権尊重などを推進することが求められています。アンリツ(株)は、取引先さまを対象とする予算説明会や担当執行役員名でのお願い通知などを通し、CSRの観点から制定した『調達基本方針』および『お願い事項』の主旨・内容をご説明するとともに、二次取引先さまへの周知を促す取り組みを行っています。取引先さまにアンリツ(株)の方針・考えを十分にご理解いただいた上で、協力関係に基づくCSR調達の推進を図っています。



【調達基本方針】

1. 取引先様の選定

公平かつ公正な考え方で、国内外を問わず常に新しいお取引先様に広く門戸を開放し、品質・価格・納期・環境対応などを重点に、適正な基準でかつ客観的な立場でお取引先様を選定します。

2. パートナースHIP

すべてのお取引先様とは健全な取引を通じて相互に利益のある協力的な関係を築くことを前提としています。

3. 法遵守・機密保持

取引にあたっては、関係する諸法規を遵守します。またお取引を通じて、お取引先様から得た情報を、承諾なしに第三者に公開いたしません。

4. 倫理概念に基づいた行動

調達業務にあたる者は、お取引先様と個人的な利害関係を持つことなく常に公正な業務の遂行をはかりお取引先様との健全な関係を持続けることを基本にしています。

5. 人権と労働への配慮

当社は人権を尊重し、労働衛生と安全確保に取り組んでおります。お取引先様にもご賛同頂き、サプライチェーンとして、推進します。若年労働者の使用や人種、性別等による差別など人権上の問題があれば、お取引を見直すこともあります。

【お願い事項】

1. 法令・社会規範の遵守

・関連法規等の遵守、児童労働、強制労働、低賃金労働の禁止、差別の禁止

2. 環境への配慮

・弊社グリーン調達ガイドライン、環境要求伝達事項等に沿った環境対応の実現

3. 優良な品質の確保、適正価格での提供、確実な納期遵守

4. 機密情報の漏洩防止及び知的財産の尊重

5. 不測の事態への迅速な対応とタイムリーかつ的確な情報開示



ともに CSRを推進する パートナーとして

佐島電機株式会社
電子デバイス第1営業本部
係長
竹山 美富 様

電子部品などの納入を通し、アンリツ様と弊社は30年来のお取引があり、私自身も10年近く担当させていただいています。『調達基本方針』と『お願い事項』については、『富士見会』の場で説明を受けました。いずれも社会的に求められているものであり、世の中の流れの中で、ごく自然な要請だと受け止めています。弊社にとって気づきになることも多く、おかげさまで弊社でも組織的な取り組みが進み、たとえば環境配慮については納入部品の梱包材を削減するための提案をさせていただくなど、ともにCSRを推進していく意識が社内生まれています。アンリツ様からは、Win-Winの関係を築くパートナーとして、取引先や協力会社を位置づけていく姿勢が、強く感じられます。弊社もしっかり応えていかなければならないと思っています。

すべての人々の人権を尊重し、さまざまな人々が安心して働ける職場づくりに努めています。

障がい者雇用状況の推移

アンリツ(株)では障がい者雇用の拡大に「できることを、できるところから」という意識で取り組んできました。雇用開発協会や受入部門の協力などにより、法定雇用率(1.80%)達成という目標を掲げた3か年計画を実現しました。

2008年度は取り組みの視野をさらに広げ、構内バリアフリー化を促進するなど、継続的な活動を展開していきます。

障がい者雇用3か年計画の進捗	2004/12	2005/12	2006/12	2007/12
3か年計画目標雇用率(単独)	—	1.23%	1.43%	1.80%
実績雇用率(単独)	1.17%	1.31%	1.48%	1.84%
参考: 実績雇用率(国内連結)	1.20%	1.27%	1.33%	1.57%

人権啓発活動の状況および今後の予定

人権啓発については、差別問題やセクハラ・パワハラなど、意識づけの必要性が高いテーマに重点的に取り組んでいます。また、世界各地の混乱や貧困などグローバル企業の一員として今まで以上に意識すべき情報を従業員に提供するため、NPOによる現地の活動状況の上映やパネル展示を行いました。2008年度も『身边と世界』の2つの視点を意識した活動を推進していきます。

両立支援の実施状況

アンリツ(株)では、休職期間中の能力開発支援プログラムや育児サービス利用料補助制度などの新設に加え、2007年度に小学校低学年の子をもつ従業員に対する短時間勤務制度を新設し、2005年からの3か年計画を完了しました。

2008年度以降は、次の新3か年計画を策定し、男性も積極的に育児参画できるよう、休職制度の充実を図るとともに、その周知と制度を利用しやすい雰囲気づくりに努めます。

アンリツ(株)第2期次世代育成支援行動計画 計画期間(2008.4.1~2011.3.31)

目 標	対 策
男女共同参画の観点から、育児休職を希望する従業員が、男女ともに安心して育児参画できる環境を整備する。	「育児休職制度の拡充」等
一時的な保育への支援として、育児サービス利用者に対する利用料補助制度を拡充する。	「自治体のファミリーサポートセンター利用者に対する利用料補助の実施」
仕事と育児の両立がより一層図れるように、両立支援関連制度の周知および従業員への理解促進を行う。	「育児関連諸制度のガイドブックの作成・配布」等

会社と従業員がともに成長していくWin-Winの関係を築くことを目指し、従業員一人ひとりの個性を尊重しながら、その成長につながる施策を継続的に進めています。

採用のボーダレス化

アンリツ（株）と国内グループ会社では、海外における大学主催のジョブフェアへの参加や日本国内における留学生の採用など、国籍にこだわらない採用を推進し、2007年12月末時点で25名が日本国内の職場で働いています。

日本語のみの案内や掲示物が多いなど、職場環境や生活環境が十分整っているとは言えませんが、生活面でのガイドブックを作成するなど、以前よりも改善されてきています。

グローバル社員育成プログラムの実施状況

アンリツグループでは、一人ひとりがグローバルな顧客と効果的なコミュニケーションを行えるように、さまざまな教育研修、自己啓発プログラムを用意していますが、中でもユニークなものがグローバル社員育成プログラムです。その概要、2007年度の参加者の状況は以下の通りです。

グローバル社員育成プログラム実施状況

プログラム名	概要	期間	2007年度参加者			
			日本	米州	EMEA	アジア他
グローバルリーダー育成研修	経営者に求められる知識修得、戦略立案を通して将来のグローバル経営に携わる人材を育成	1年間	4	2	4	2
グローバル人材交流プログラム	各地域間の人材交流を通して異なる言語、文化、価値観とともに幅広い視野を習得	1～12か月	6	4	0	0



分かったふりをしない 異文化交流を

アンリツ株式会社
人事総務部
人事チーム
湊 英里

短期派遣型の『グローバル人材交流プログラム』で来日する外国籍従業員を、主に生活の面でサポートしています。このプログラムは単なる出張ではなく、仕事をしながら派遣先の国で暮らしていくことを通して、自然と異文化交流が進み、本人にとっても受け入れ側にとっても大きなメリットを生み出しています。来日するのは日本語を話せない人が大半ですので、住居の手配からゴミ出しの方法、銀行の場所などの生活情報を提供し、時には薬局や病院への付き添いに出向くこともあります。仕事については受け入れ先の職場で対応してもらいますが、それ以外の相談窓口としてプログラム参加者をフォローしています。異文化コミュニケーションで大切なのは、急ぎすぎず、少しずつお互いに理解をしていくことではないかと思っています。分かったふりをするのではなく、少し時間をかけてでも相手の話をきちんと理解し、誠実に応えることをこれからも心掛けていくつもりです。



スペシャリストとして いつまでも アンリツに

アンリツプレジジョン株式会社
開発部 博士（工学）
Michal Pawlowski

母国ポーランドで博士課程を修了し、電気通信大学で形状測定の研究をしている頃、精密計測に利用するための白色光源を使った干渉計を共同開発した縁で入社しました。現在は、ナノメートルスケールの極微小な高さを測る計測器

の測定アルゴリズムを開発しています。これは、液晶ディスプレイの製造工程や品質管理などに使うものです。アンリツでは欧州に比べ、個々のエンジニアの裁量範囲が広いことに驚きました。それだけ責任も重くなりますが、やりがいも大きく、私には合っています。また、アンリツでは、外国籍従業員であっても、仕事と生活の両面で十分なサポートが受けられます。従業員同士の関係も親しく、良い職場環境が整っています。文化の違いはもちろんありますが、私自身はその違いも面白く感じています。開発の仕事はすべてのプロセスが面白く、毎日が新鮮です。私の天職だと思っていますので、技術力の高いこのグローバルカンパニーで、いつまでもスペシャリストとしてあり続けたいと願っています。

アンリツは、従業員尊重の立場から『安全第一』と『健康保持増進』を安全衛生活動の基本理念とし、快適職場の維持に努めています。

安全衛生の取り組み

アンリツ(株)では、労働安全衛生法に基づき、生産ライン管理部門とスタッフ部門による安全衛生管理体制を確立し、生産活動と安全衛生活動が一体となって、主に次の取り組みを実施しています。

- 月次の安全衛生委員会での活動状況の確認や災害防止策の立案
- 機械設備の導入・移動・変更時および化学物質購入時の事前審査によるリスク低減
- 階層別教育や外部講師による研修会を通した安全衛生意識の高揚
- 作業環境測定や職場巡視による安全・安心で快適な職場づくり
- 近隣事業場との情報交換を通した労働災害防止等



交通安全予知活動



救命講習会

労働災害発生状況

アンリツ(株)厚木地区では、2007年度は、微傷災害が1件発生したものの、2006年度に引き続き休業災害「ゼロ」を達成しました。無災害労働時間700万時間を5月に達成し、現在も更新中です。

健康管理

アンリツ(株)では、産業医を中心とする産業保健スタッフが、全社員の健康に関して、主に次の支援活動を行っています。

- 健康診断の実施(定期、特殊、雇入時、海外派遣者)に加えた再検査を必要とする者に対する二次健診受診勧奨
- 長時間残業者の問診票によるスクリーニングと産業医面談および産業医からの助言・指導に基づく健康障害防止措置の実施
- 心のケアを目的とするカウンセリング
- 健康への意識教育、保健指導、健康相談、健康づくり(THPウォーキング)



生活習慣予防セミナー



THP 教室



良き企業市民として社会と協調し、ともに発展していくための多様な社会貢献活動を、アンリツグループ全体で推進しています。

青少年の教育支援

●小学生の会社見学と職場体験学習

社会学習の一環として、①地域の企業がどのようなことをしているのかを理解し身近に感じ取ること、②作業工程を見学し、製品がどのように作られていくかを学ぶこと、の2つを目的に、厚木本社近隣の小学3年生と保護者約170名が、11月にアンリツ(株)本社を訪問しました。普段見ることのない会社の中や職場、製品に興味深く見学し、最後にアンリツグループのアンリツテクマック(株)から、レーザー加工で作った特別のクラス表示板が贈られました。



●厚木市教育委員会主催「おもしろ理科実験教室」

青少年の「理科離れ」や「科学技術離れ」が指摘されている中、アンリツ(株)は、厚木市の呼びかけに応じた取り組みを行っています。子供たちに豊かな体験を通して科学に対する興味を高めてもらうことを目的とした「おもしろ理科実験教室」を厚木市内の小中学校で実施しました。レーザー光の特徴をわかりやすく解説し、それを用いた実験とゲームを行いました。



青少年間のスポーツ振興支援

●厚木市招待少年サッカー大会の後援

アンリツ（株）は、創業100年記念社会貢献事業の一つとして、1995年から毎年2月に開催される厚木市招待少年サッカー大会を後援しています。

今回は、厚木市の友好都市である韓国・^{クンボ}軍浦市の初等学校チームも含め、32チームが参加し、国際交流的な雰囲気の中で熱戦が繰り広げられました。



●「HOSHINO DREAMS PROJECT」で、夢に溢れた若者を支援

星野仙一野球日本代表監督が、若者の夢の実現をサポートするために「HOSHINO DREAMS PROJECT」を2007年10月に設立しました。このプロジェクトでは、スポーツ・ビジネス・オペレーション（経営、運営）の分野で有能な人材を育て、その能力を広く社会にフィードバックさせる活動に取り組んでいます。“がんばる若者にステージとチャンスを与えたい”。アンリツ（株）は星野氏のこの想いに共感し、HOSHINO DREAMS PROJECTに協賛しています。1895年の創業以来、常に時代の最先端の技術を追求してきたアンリツだからこそ、自らの夢を実現するために、躍動している若者を応援します。

若者の夢とスポーツで世界に感動を



私たちは、ホシノドリームズプロジェクトのオフィシャルスポンサーです。

地域社会の活動

●厚木市救急マーク交付施設に認定

「厚木市救急マーク」は、応急手当のできる環境を整備し、市民が安全・安心に暮らせるまちづくりを進めるため、傷病者が発生したときに適切な応急手当をできる従業員などが勤務していると認められた施設に厚木市から交付されます。アンリツ（株）も認定され、11月に交付されました。



●「あつぎテクノフェスタ2007」への参画

アンリツ（株）および国内グループ会社は、厚木市と厚木商工会議所が主催する「あつぎテクノフェスタ2007」に参加し、地域産業の振興に努めました。この催しは、厚木市内外の企業や大学などの先端技術や優秀製品を展示紹介するもので、ビジネスチャンスの拡大を目指すとともに、産学・産産交流の促進を図ることを目的としています。10月26日から28日の3日間にわたり厚木商工会議所で開催され、地元のケーブルテレビでも放映されました。

最新の携帯端末ソリューションシステムやレーザー光線でメタンガスを検出する検知器などを展示紹介するとともに、地域住民とアンリツ製品を通じた交流を行いました。



ケーブルテレビでの放映



携帯電話用測定器のデモに触れる子どもたち



環境保全活動

●緑の募金活動

アンリツ(株)厚木本社内には、売上金の一部が「緑の募金」
として寄付される自販機を設置しています。10月にはさらに
1台増設し、2007年度は苗木寄贈本数としてマサキ93本、
ソメイヨシノ55本分に相当する募金が集まりました。これ
は森林整備面積で1,210㎡、また二酸化炭素吸収量に換算
すると408kgになります。

●富士山「緑の募金の森」緑化活動に参加

地球温暖化が大きな社会問題となる中、環境保全に関わる
活動として、国内アンリツグループの従業員がリコーリース
株式会社との呼びかけに応じ、台風で破壊された富士山
のふもと森を80年かけて再生する「緑の募金の森」緑化
活動を実施しまし
た。環境修復に貢
献するボランティ
ア活動として昨年
6月と9月の2回
実施し、延べ60名
が参加しました。



●『グリーン・デイ』イベントの開催

2007年7月、アンリツ・カンパニー(アメリカ)では、コーボ
レート・エクスプレス社、マイヤーズ・モータース社など、環境
保護に賛同する協力会社を多数集め、各社の多様な「緑の運
動」について発表する『グリーン・デイ』イベントを実施し、家庭
でもこの緑の運動を実行するよう従業員に呼びかけました。

2008年4月には、第2回目のイベントを開催しました。
今後もアンリツ・カンパニーは、楽しんで参加できる啓発
イベントも利用しながら、環境保護に取り組んでいきます。



マイヤーズ・モータース社の電気自動車



昼食時に配られた「ジャガイモ」を
原料とするフォーク

チャリティー活動

●オペレーション・クリスマス・チャイルドに参加

アンリツ・エメア・リミテッド(イギリス)の従業員は、クリ
スマスプレゼントを持ち寄り、宗教団体「サマリア人の財布」
のオペレーション・クリスマス・チャイルドを通して、恵まれな
い子供たちに贈りました。



オペレーション・クリスマス・
チャイルドとは、各企業や団
体が、国籍、政治背景、信仰の
違いを越え、世界中の子供たち
に、玩具、学用品などの贈り物を
靴箱に詰めて贈る1年に1回の
催しです。

●NPO 活動支援

2006年から国内アンリツグループ従業員の自主的な
社会貢献活動としてスタートした、『使用済み切手・プリペ
イドカードの収集活動』が定着し、2006年以上の成果が得
られました。さらに、NPO(日本国際ボランティアセンター)
との協働によるボランティアバザーも開催し、海外の支援
活動に寄与しています。

また、海外から持ち帰った外国コインを集め、財団法人
日本ユニセフ協会に寄付しました。この成果は発展途上国
の子供たちの医療・教育に役立てられます。



ボランティア・バザー



使用済み切手・
カードの収集



外国コインの仕分け

「平成19年度かながわ地球環境賞」を受賞

アンリツ（株）は、日頃の環境保全活動が評価され、2007年12月に「平成19年度かながわ地球環境賞」を受賞しました。この賞は、神奈川県およびかながわ地球環境保全推進会議が主催し、今年度で15回目を数えます。

アンリツは、事業活動が及ぼす環境影響を的確に把握・評価・改善することを事業経営の重点課題として実践的な環境活動に取り組み、その業績が顕著であったことや、長年にわたり神奈川県環境保全協議会の理事を務め、同協議会でさまざまな委員会活動に携わってきたことなどが高く評価されました。

表彰式に続き開催された「地球温暖化防止の集い」では、エネルギー分科会でアンリツの事例を報告するとともに、産・官・学・NPOの受賞者を中心とする出席者の皆さんと、さまざまな視点から見た省エネ活動について活発な意見交換を行いました。



表彰式



「地球温暖化防止の集い」

企業としての真摯な環境活動はもちろんのこと、一人ひとりの環境意識を高めることも重要と考え、従業員の『エコマインド』の醸成にも努めてきたアンリツ。2007年度のハイライトとして着実にやってきた環境活動が外部から評価された事例と、従業員の海外でのボランティア活動をご紹介します。



企業として、個人として、
地球温暖化対策などの環境活動を実践
地球環境保護の推進

**ハイライト
(達成像3)**

エコツアーに参加し、 一家3人の約3年分のCO₂を削減



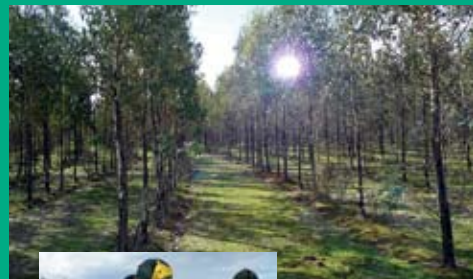
アンリツ（株）環境推進センター
田中 昇

2007年8月に、ボランティア休暇制度を活用してエコツアー（オーストラリア・カンガルー島）に、私と妻、息子の3人で参加しました。

このツアーは、地球温暖化防止対策のひとつとして日本電気（株）が2002年から取り組んでいるもので、アンリツ（株）の本社のある厚木市の約1/3の面積に相当する3,000haに330万本のユーカリなどを植える事業の一環です。ユーカリは10年ほどで約20mもの高さにまで成長して

収穫可能となり、1本でA4サイズコピー用紙15,000枚に相当する紙が得られます。

ツアーの間に、3人で41本を植林しました。これは、20年で約16トンのCO₂吸収源に相当します。行き帰りに利用した飛行機などからのCO₂排出量は3人で約6トンですので、差し引き約10トンの削減効果です。人間1人の年間CO₂排出量は0.36トンとされていますので、一家3人の約3年分の削減効果が得られたことになります。今回の植林によって、微力ながら地球温暖化防止に貢献できた喜びを、一家で味わうことができました。



植林4年後のユーカリ



苗木用の穴掘り



植林実施証明書



アンリツはグローバルに環境経営を展開し、一人ひとりの『エコマインド』『エコオフィス』『エコプロダクツ』の実現に向けた取り組みを、さらに進めています。当報告書では2007年度のトピックスとなる活動を中心に紹介しています。

環境マネジメントシステム (ISO14001) の取得範囲を拡大するとともに環境監査の充実やパフォーマンスの向上に努め、環境に関するトップのコミットメントや実績情報を地域の方々、株主および顧客等のステークホルダーに開示する

エコマネジメント

社員一人ひとりが役割を認識し業務の中で環境改善を推進し、社会的貢献をする社員になる

エコマインド社員

顧客を満足させる性能、品質、価格を備えた一流の技術のもとに、ライフサイクル全体で環境に配慮し、かつ人の感性を満たす製品を提供する

エコプロダクツ

アンリツグループ環境理念

アンリツは、環境に配慮した製品の開発と生産を追求し、誠と和と意欲をもって、人と自然が共存できる豊かな社会づくりに貢献します。

オフィスの省エネルギー、廃棄物管理、省資源等を実施して、環境改善に努めるとともに、その機能を生かし、エコプロダクツの提供とエコファクトリーの発展に向けて支援する

エコオフィス

各プロセスにおいて法規制等の遵守と環境リスクの低減を図るとともに、省エネルギー、廃棄物管理、省資源等の地球環境の改善に努める

エコファクトリー

※地球環境保護の報告範囲は、アンリツ（株）および次のグループ会社です。

国内グループ会社：アンリツ産機システム株式会社、東北アンリツ株式会社、アンリツ計測器カスタムサービス株式会社、アンリツデバイス株式会社、アンリツネットワークス株式会社、アンリツプレジジョン株式会社、アンリツエンジニアリング株式会社、アンリツ興産株式会社、アンリツテクマック株式会社、株式会社アンリツプロアソシエ

海外グループ会社：Anritsu Company（アメリカ）、Anritsu Ltd.（イギリス）、Anritsu A/S（デンマーク）

低炭素社会の構築に向けて

アンリツ株式会社
執行役員 環境推進センター長
高橋 光一郎



2008年は京都議定書の第一約束期間の最初の年に当たり、地球温暖化の進行に警鐘を鳴らすテレビ番組や新聞記事を多く見かけるようになりました。これまで、アンリツグループでは地球温暖化防止を環境活動の最重要課題の一つと捉え、工場、オフィスや製品の省エネルギーに取り組んでまいりました。国内アンリツグループのエネルギー使用量は、CO₂排出量換算で1990年度比19%削減を

達成しています。また、基準製品と比較して消費エネルギーを3割以上削減した機種の開発に取り組み、2007年度は開発製品の53%で達成することができました。海外ではアメリカのアンリツ・カンパニー、イギリスのアンリツ・リミテッドで省エネルギーの環境目標を設定し、取り組んでおり、アンリツ・カンパニーでは電気使用量（絶対値）が2006年度比で9%削減という大きな成果を上げています。

IT機器自身の省エネとIT・エレクトロニクス技術による経済・社会活動の低炭素化をより具体化するため、産官学のパートナーシップによる「グリーンIT推進協議会」が2008年2月に設立され、アンリツも加盟しました。引き続き事業活動全体の省エネに取り組むとともに、アンリツのソリューションを通して低炭素社会の構築に貢献してまいります。

グループ丸となって環境マネジメントシステムの構築・運用を進め、グローバルな環境経営推進に取り組んでいます。また、一人ひとりが業務の中で環境改善を推進して社会に貢献できるよう、従業員のエコマインド向上を図っています。

環境マネジメントシステム

アンリツグループの主要生産拠点である日本、アメリカ（アンリツ・カンパニー）、イギリス（アンリツ・リミテッド）で環境マネジメントシステムを構築し、ISO14001の認証を取得しています。2008年度は、アンリツ（株）のすべての営業拠点まで環境マネジメントシステムを拡大する予定です。

ISO14001認証取得状況

認証取得会社	認証登録年月	認証機関
・アンリツ株式会社 グループ関連会社： ・アンリツ産機システム株式会社 ・アンリツ計測器カスタマーサービス株式会社 ・アンリツネットワークス株式会社 ・アンリツプレジション株式会社*1 ・アンリツエンジニアリング株式会社 ・アンリツ興産株式会社 ・アンリツテクマック株式会社 ・株式会社 アンリツプロアソシエ ・アンリツデバイス株式会社 ・東北アンリツ株式会社*2	1998年8月	JQA
・Anritsu Company (アメリカ)	2007年3月	NQA
・Anritsu Limited (イギリス)	2000年3月	BSI

*1 アンリツ株式会社からの分社化にともない、2008年8月に拡大審査により認証取得予定。

*2 東北アンリツ株式会社は1999年10月に単独で認証済みでしたが2003年に統合しました。

遵法状況

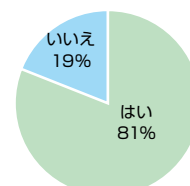
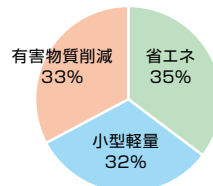
国内アンリツグループでは、法や条例で規制があるものは、これより厳しい自主管理基準を設けて遵守に努めています。2007年度は、厚木地区、棚沢地区、東北地区ともに基準に対し低いレベルで推移し、水質・大気・騒音等の法違反はありませんでした（サイト別の基準や結果は、<http://www.anritsu.co.jp/J/environment/data.asp>を参照してください）。また、環境問題に関する訴訟、近隣からの苦情などはありませんでした。

CS調査に環境配慮型製品に関する項目を追加

お客さまにご満足いただける環境配慮型製品を提供するために、2007年度から日本におけるCS調査に環境配慮型製品についての項目を追加しました。その結果、80%以上のお客さまが環境配慮型製品を求めていることがわかりました。また、お客さまがもっとも重視する環境配慮項目は、省エネ35%、小型軽量32%、有害物質削減33%と、ほぼ均衡していました。アンリツ製品の環境配慮性について満足されているお客さまは60%でした。今後も、環境面においてご満足いただける製品開発を行っていきます。

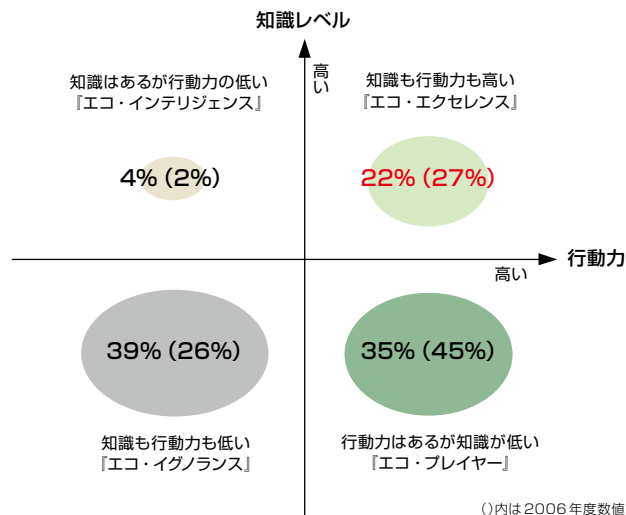
環境配慮性で一番重視することは？

環境配慮製品を積極的に購入しますか？



従業員への環境意識調査

エコマインドの浸透度を測るため、国内アンリツグループの全従業員を対象に、第2回環境意識調査を実施しました。調査は、環境用語の把握度と環境行動に関する回答から環境に対する知識と行動のレベルの相関を分析し、前回と比較しました。回答率は、57%で2006年度（42%）より大幅に増加し、環境への関心は高まっていますが、環境知識が高く行動も環境に配慮できている『エコ・エクセレンス』の割合は、22%（2006年度27%）と減少しました。分析結果に基づき、回答率および『エコ・エクセレンス』割合の向上のための教育・啓発を実施していきます。





オフィスや工場から排出するCO₂、廃棄物、有害化学物質の管理・削減をさらに推進し、総合的な環境負荷低減に取り組んでいます。

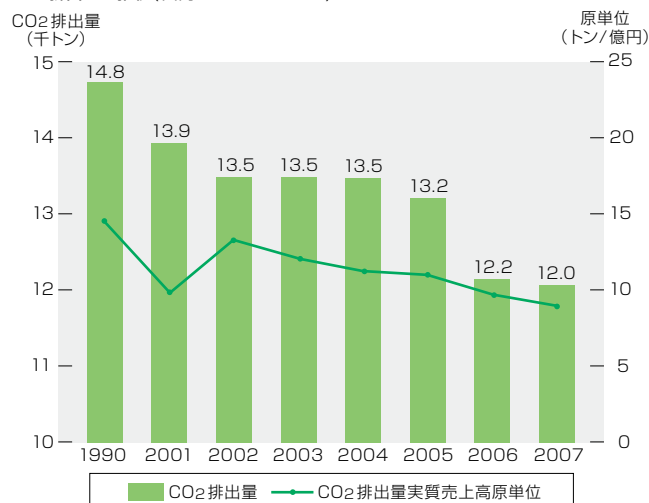
地球温暖化防止活動

国内アンリツグループ（厚木地区、棚沢地区および東北地区）が排出する温室効果ガスの大部分は、エネルギー使用によるCO₂です。このため、継続的に削減目標を定め、省エネ活動に取り組んでいます。

2007年度は、厚木地区では照明のインバータ化を拡張、棚沢地区ではクリーンルームに関わるさまざまな機器の省エネ運転施策を実施しました。また、東北地区では照明のインバータ化や人感センサ付照明器具の導入など、設備の省エネを促進しました。さらに、アンリツグループが政府の推進する地球温暖化防止活動「チーム・マイナス6%」に2005年に参加して以来毎年行っている夏季地球温暖化防止活動（クールビズ）、冬季地球温暖化防止活動（ウォームビズ）では、夏季は送風量を多めに、冬季は湿度を高めにして体感温度を改善することなどにより、空調温度設定（夏季28℃、冬季20℃）の一層の徹底を図りました。

これらの成果により、国内アンリツグループで、棚沢地区の増設（2001年）以来最少の電力使用量だった2006年度よりもさらに削減でき、電力使用量（絶対値）は前年度比2%減少の27,952MWh、またエネルギー使用によるCO₂排出量（絶対値）は2006年度比2%減少の12,003トンとなりました。この結果、実質売上高原単位は、電力使用量が19.4MWh/億円、CO₂排出量が8.3トン/億円と、いずれも2006年度比4%以上の減少となって、目標としていた1%削減を達成しました。

CO₂排出量^注推移（国内アンリツグループ）

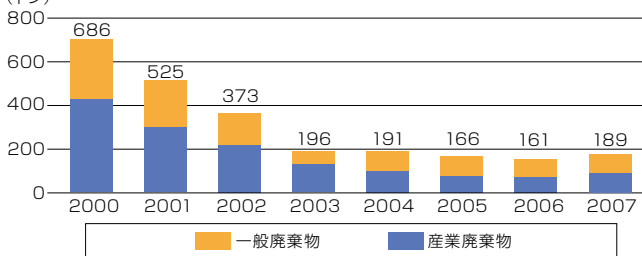


注)電力使用に伴うCO₂排出換算係数は電気事業連合会の公表値を使用して算出しています。
2007年度の排出量は、2006年度実績値を使用して算出しました。

廃棄物削減

2006年度までは産業廃棄物を対象として、2000年度比の削減目標を立てて取り組んでいましたが、当初の目標を達成したため、2007年度からは廃棄物全体（産業廃棄物および一般廃棄物）に対象を広げ、2006年度比で実質売上高原単位を2%削減する目標を設定しました。しかし、厚木地区の排水処理施設から予定外の汚泥30トンが排出されたことにより、2007年度は実質売上高原単位で14%の増加（廃棄物量は28トン増加）となってしまいました。2008年度はこの原因を是正し、あらためて2006年度比2%削減に取り組めます。

廃棄物排出量の推移（国内アンリツグループ）
(トン)



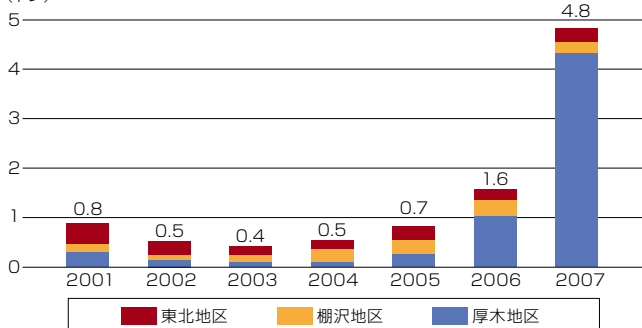
PRTR法への対応

2007年度は厚木地区でビスフェノールA型エポキシ樹脂（液状）の取扱量が1トンを超え、PRTR法^注に基づく届出を初めて行いました。これは、2006年からアンリツ産機システムの金属検出機で使用しているエポキシ樹脂の充填作業を内作化したため、エポキシ樹脂の成分であるビスフェノールA型エポキシ樹脂（液状）の取扱量が2005年度192kg、2006年度942kg、2007年度4,284kgと大幅増加したことによるものです。アンリツ産機システムでは、2008年度から削減計画を立案し、取り組んでいきます。

また、棚沢地区で最も使用量が多かった物質はエチレンジオキシモノエチルエーテル200kg、東北地区では鉛およびその化合物の205kgでした。

注)特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律

PRTR物質取扱量（国内アンリツグループ）
(トン)

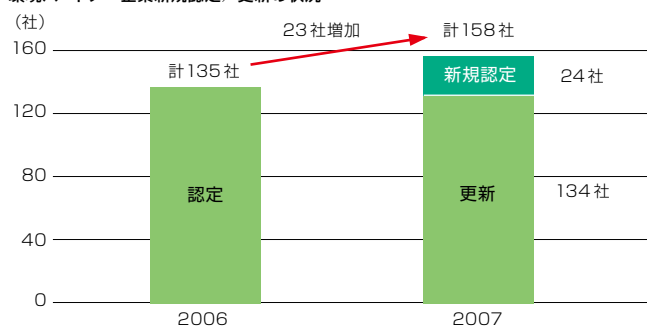


サプライチェーンマネジメントの推進

●EMS支援（環境パートナー認定制度）

グリーン調達を行うためには、仕入先・協力会社（サプライヤ）自身の環境に対する取り組みも重要です。アンリツ（株）では、環境パートナー認定制度を設け、サプライヤの環境マネジメントシステム（EMS）の構築や製品アセスメントの実施状況について評価し、環境に積極的なサプライヤから環境に配慮した製品を優先的に調達するとともに、サプライヤの環境取り組みの推進を図っています。サプライヤの評価は、AランクからCランクまでの3段階に分け、積極的に環境取り組みを推進しているAランクのサプライヤを環境パートナー企業として認定しています。また、B、Cランクと評価されたサプライヤに対しても、環境への取り組みを充実させるための協力支援を継続的にを行っています。

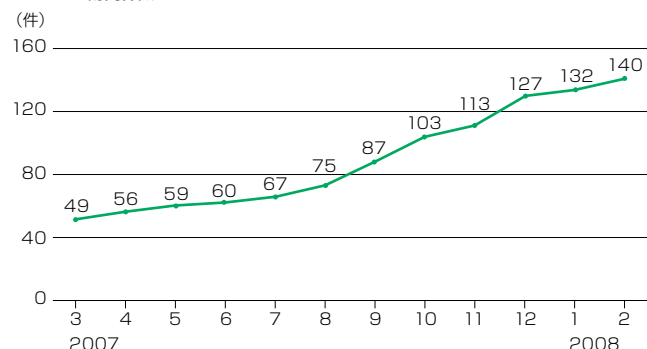
環境パートナー企業新規認定／更新の状況



●有害物質の管理

有害物質を製品から排除するには、サプライヤと、さらにそこに連なる企業が、製品に含まれる化学物質管理体制を適切かつ継続的に実施していることが必要です。そこで、国内アンリツグループでは2006年度からサプライヤへ訪問し、製品含有化学物質管理体制の確認を行ってきました。さらに2007年度は、機構部品／材料を取り扱うメーカ約100社について、現地確認を実施するとともに、サプライヤへの指導、支援を行い、サプライチェーン全体で製品に含まれる化学物質管理の強化に取り組みました。

サプライヤ訪問件数

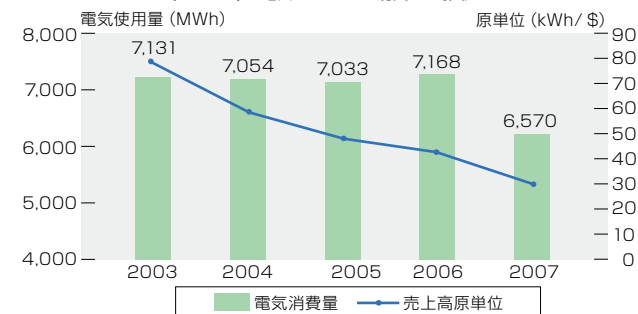
生活を豊かにする
アイデアを
社会と共有

Anritsu Company
Director of Quality
Eric McLean

私は、アンリツ・カンパニー（アメリカ）で、校正や測量、文書化、商品化、監査など、さまざまな分野の品質管理に携わり、電力使用量2%、水使用料10%を目標に削減するための取り組みを進めています。また、社内では、Webを使ったISO14001などの環境教育プログラムを実施しています。これらにより従業員の間には健全な環境意識が育ち、太陽光発電やリサイクル、資源保護などの、より野心的な課題への関心も高まっています。

面白い時代になったと思います。売り上げは伸びているにもかかわらず、生産に使うエネルギーは以前よりも少ないのです。つまり、私たちは、環境負荷低減と事業の発展が両立できることを、まさに証明していることになります。アメリカでは、どの会社も従業員と株主がともに低炭素化への努力を続けています。そうした中、CSRや環境問題に先進的に取り組む厚木本社から適切なアドバイスを受けられることは、大きなアドバンテージです。私は、人々の生活を豊かにするアイデアを、どれだけうまく社会と共有できるかが、企業の進歩の尺度になると考えています。私たちは、これからもグループ会社はもちろん、ステークホルダーの方々と協力しながら、社会の持続的な発展に貢献していきます。

アンリツ・カンパニー（アメリカ）の電気エネルギー消費量の推移



従業員の環境マインドを向上させ、PCや各種機器類の不使用时に、徹底して電源を切ることによってエネルギー使用量を削減しました。



製品環境規制にグローバルに対応し、すべての開発製品において設計の初期段階から質の高い製品アセスメントを実施しています。また、クリーン（有害物質の排除）・省エネルギー・省資源な環境配慮型製品の開発を積極的に進めています。

グローバルに拡大している製品環境規制への対応

欧州連合（EU）では2005年からWEEE指令、2006年からRoHS指令が施行されたのに続き、2007年は新しい化学物質規制であるREACH規則が施行されました。中国やアメリカなどでも類似の法規制が制定されており、製品環境規制は急速にグローバル化しています。こうした状況に対応するため、アンリツではアメリカやデンマークなどの海外グループ会社とグローバル環境管理会議を組織することによって、情報を共有化し、対応を統一化しています。

また、製品環境規制に素早く対応するにはサプライチェーンが重要であるという認識から、サプライヤーと連携して相互に理解を深め、協力関係を強化しています。

設計開発の段階から環境に配慮

2007年度は国内アンリツグループの全開発製品の74%が環境配慮型製品となり、目標の70%以上を達成しました。また、海外の開発拠点における製品アセスメント実施に向け、グローバル製品アセスメント基準を作成しました。

●製品のクリーン化

アンリツグループでは、製品に含まれる有害物質の削減に努めています。EUでRoHS指令が施行されたことを受け、有害物質対応設計をより強化してきました。

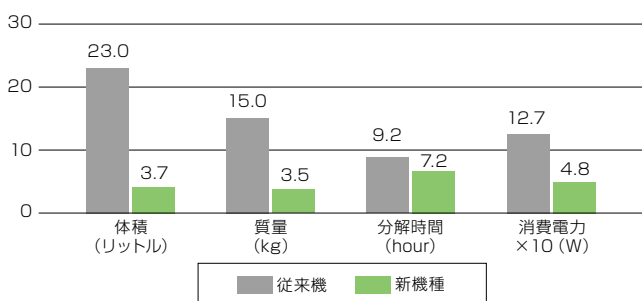
2007年度はお客さまの要求を受け、非接触で電子部品の端子形状を高速・高精度に測定し、実装基板の品質向上に貢献するMK5302A4チップインスペクタをRoHS指令に対応しました。有害物質を設計段階から削減するために、電気部品中の鉛やめっき、塗装などに含まれる六価クロムなどの含有量調査を行い、不適当なものは、部品代替などにより、対策を実施しました。また、2006年度に導入した蛍光X線分析装置で、調達部材を分析しました。



MK5302A4 チップインスペクタ

●製品アセスメント事例

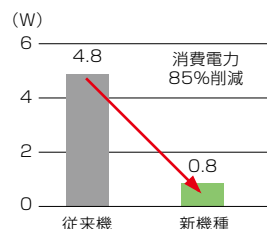
2007年度は国内アンリツグループの全開発製品の79%が省資源10%以上となり、目標の30%以上を大幅に達成しました。フラットパネルディスプレイのガラスの寸法を精密に測定するKL1330A/KL2330A 小型変位センサは、小型・低消費電力の新型マイクロコンピュータを採用し、信号処理回路を高密度に集積。筐体のアルミ化や光学系のダウンサイジングにより、小型・軽量化を実現しました。また、制御部1台で最大10個のセンサヘッドを制御可能としたことでセンサヘッドを複数台使用した際の消費電力を削減しました。この結果、従来製品と比較し体積・質量・分解時間・消費電力の平均改善率61%を達成しました。



KL1330A/KL2330A 小型変位センサ

●省エネルギー設計事例

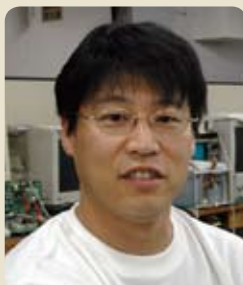
2007年度は、国内アンリツグループの全開発製品の53%が消費電力改善率30%以上となり目標の全開発製品の20%以上を達成しました。光通信の光源となるAF4Y108GA85J 1.48 μm円筒モジュールは、従来のバタフライ型から円筒型にモジュール形態を変更するとともに、高温下でも高い光出力が得られる半導体発光素子構造や放熱効果の高いモジュール部材の採用などにより、温度制御素子を非搭載とし、従来品に比べ消費電力を85%改善しました。



AF4Y108GA85J 1.48 μm 円筒モジュール



アンリツでは独自に定める製品アセスメントを実施し、業界をリードする環境配慮性を持つなど、一定の環境配慮基準を満たす製品を『エクセレント エコ製品』と定義しています。



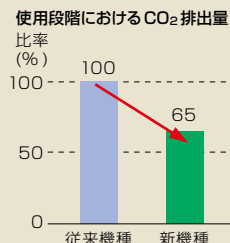
アンリツ (株)
マーケティング本部
商品企画センター
企画チーム3 主任
牧 達幸

優れた測定性能と小型化を両立

家庭にまで光ファイバーを引くFTTHが普及しています。ネットワークマスタシリーズMT9090Aは、電柱から住宅までの光ファイバーの断線位置を測定する計測器です。作業者に一人一台持っていただけるよう、小型、軽量を実現するため、回路を一から見直すとともに新しい部品も採用しました。特に、性能のカギとなる光モジュールを、性能を犠牲にすることなく業界で初めて一体化することに成功。短デッドゾーン性能（計測不能な範囲の少なさ）をはじめ、優れた測定性能と小型化を両立しました。これらの革新により、従来機種と比較して、使用段階におけるCO₂排出量を35%削減できました。



ネットワークマスタシリーズ
MT9090A



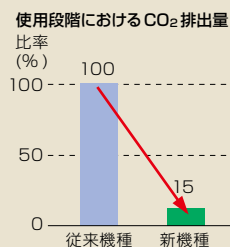
東北アンリツ (株)
技術部
開発プロジェクトチーム
佐藤 武彦

新しいコンセプトのハンディ計測器

ハンディエリアテスタML8760Aは、携帯電話の基地局の電波レベルを測定する計測器です。車では入れないような狭い場所や地下街などに、測定者が自ら持ち運んで使用するため、電池で駆動する小型・軽量なものが求められていました。表示部およびモジュールの筐体にMT9090A（上のコラム参照）と同じものを利用しましたので、測定回路に使用できるスペースがあらかじめ決まっているという制約がありました。その制約の中で、部品の選定からプリント基板への実装方法まで試行錯誤し、これまでこの分野にはなかった小型の計測器を実現しました。従来機種と比較し、使用段階におけるCO₂排出量を85%削減できました。



ハンディエリアテスタ
ML8760A



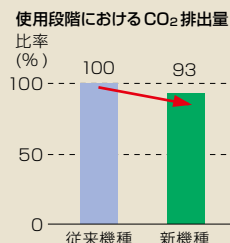
アンリツ (株)
R&D統轄本部
第1商品開発本部
第1開発部 主任
山田 康典

1mm単位でスペースを有効利用

シグナルアナライザMS2690A/91A/92Aは、次世代携帯電話端末開発の際の送信試験などに利用される信号測定器です。回路のデジタル化により、従来1ボード必要だった回路を1つのLSI（大規模集積回路）で実現し、さらに最新のメモリ技術を活用するなど、1mm単位でのスペースの有効利用に取り組みました。これにより、必要に応じて機能を拡張するためのスロットを3スロット用意。信号発生器を追加することで、送受信試験を一台で行うことも可能にしています。こうした取り組みにより、高周波数と広帯域化を実現するとともに、従来システムに比較し、使用段階におけるCO₂排出量を7%削減できました。



シグナルアナライザ
MS2690A/91A/92A



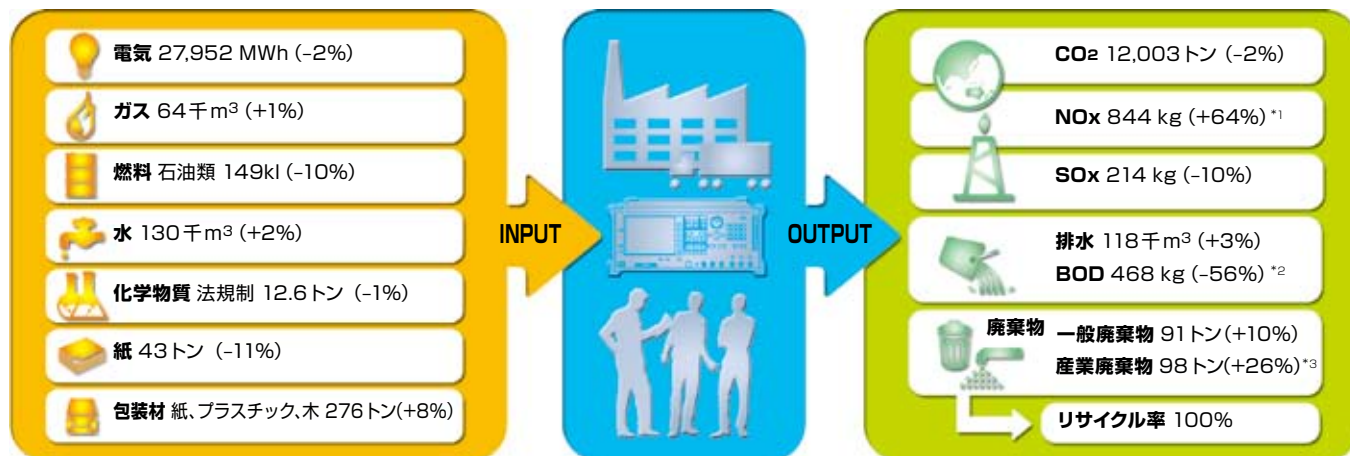


アンリツでは事業活動に伴う環境負荷や環境保全活動を貨幣単位・物量単位で数値化し、環境保全活動のさらなる効率化を図っています。また、それらを積極的に情報開示することで、環境に対する取り組みへの理解を深めていただけるよう努力しています。

環境負荷マスマバランス

国内アンリツグループ（厚木地区+棚沢地区+東北地区）の事業活動による環境負荷マスマバランス*を示します。（ ）内は2006年度比です。海外拠点を含めた環境負荷マスマバランスについては、www.anritsu.co.jp/J/Environment/mass_balance.aspをご参照ください。

*事業活動と環境負荷の関連性をより明確に示すために、外部から企業内に持ち込まれる物質を物質名と物量で把握・表記し、企業から外部へ排出された物質と物量を把握・表記する対照表により、環境負荷を表したものです。



INPUT 電気：工場・オフィスなどで使用する電力会社からの購入電力 ガス：エネルギーとして使用する都市ガス 燃料：エネルギーとして使用する重油、軽油 水：水道水、地下水（再利用水を除く）
化学物質：法規制を受ける化学物質（毒物、劇物、危険物、有機溶剤、特定化学物質） 紙：工場・オフィスで使用するコピー紙、EDP用紙 包装材：製品の包装・梱包材および物流時の梱包材

OUTPUT CO₂：電気、ガス、燃料の使用に伴って発生する二酸化炭素（電気の使用に伴って発生する二酸化炭素の排出係数は、電気事業連合会公表値（2006年度実績値）を使用しました）

NOx：ガス、燃料の使用に伴って発生する窒素酸化物 SOx：ガス、燃料の使用に伴って発生する硫黄酸化物 排水：工場・オフィスの工程系排水および生活系排水 BOD：生物化学的酸素要求量

一般廃棄物：事業活動に伴って生じた産業廃棄物以外の廃棄物（厨芥物、紙くず、木くずなど） 産業廃棄物：事業活動に伴って生じた廃棄物のうち汚泥、廃プラスチック類、廃酸、廃アルカリなど「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に定められた廃棄物 リサイクル：廃棄物を熱回収（サーマルリサイクル）、再生利用（マテリアルリサイクル）により、資材、原料または資源として用いること

*¹:東北地区ボイラーからのNOx排出量を算出するための1項目(排ガス分析時のボイラー稼働率)が不明であり、通常稼働率として算出したために算出値が多くなりました。ただしNOx濃度は、法規制値を十分満足しています。

*²:厚木地区厨房排水処理施設改造により、水質がより向上し、BODが減少しました。*³:24頁参照

環境会計：2007年度の実績

2007年度の費用額は、2006年度比6%減少。有害物質対応関連のグリーン調達等と環境配慮型製品開発に関連した費用の合計は2006年度比で数%の減少。地球温暖化防止については、省エネ施設の投資額は19%増加がありましたが、気候的には夏・冬ともに前年より厳しい中、省エネ活動による効果に加わり、CO₂削減量は前年の13%増（1184トン-CO₂）となりました。

集計範囲：国内アンリツグループ会社 対象期間：2007年4月1日から2008年3月31日

環境保全コスト				効果*¹	
大分類	中分類	投資額(百万円)	費用額(百万円)	経済効果(百万円)	物量削減効果
事業エリア内コスト	公害防止コスト(リスク対策を含む)	0 [0]	15.9 [30.7]	0 [0.0]	
	地球環境保全コスト	4.2 [3.6]	18.4 [16.1]	43.4 [39.0]	1,184(トン-CO₂) [1,084(トン-CO₂)]
	資源循環コスト		75.7 [63.5]	3.6 [8.3]	86.1(トン) [78.4(トン)]
			35.5 [35.8]	18.1 [11.1]	(廃棄物焼却・埋立削減)*²
上下流コスト	グリーン購入/調達コスト		41.5 [36.2]		
	環境配慮型製品設計		58.4 [66.9]	(25.7*¹ [54.1])	702(トン-CO₂)*¹ [1,477(トン-CO₂)]
	製品・容器包装等リサイクル、回収、処理		2.1 [7.3]		
管理活動コスト	環境教育/人材育成		21.4 [25.2]		
	EMS運用・維持、内部監査		72.5 [86.8]		
	環境負荷の監視測定コスト		24.2 [24.0]		
	環境保全対策組織の人的費用		24.0 [32.7]		
	緑化整備・維持		10.6 [10.9]		
社会活動コスト	地域・環境保全団体等への支援・寄付		1.2 [0.9]		
	情報公開		7.0 [8.8]		
研究開発コスト	環境負荷低減のための研究開発		17.7 [5.9]		
環境損傷対応コスト	環境損傷対応のためのコスト		0 [0]		
	合計	4.2 [3.6]	426.1 [451.7]	65.1 [58.4] (25.7 [54.1])	
	2006年度比	+11.1%	-5.6%	+11.5%	

*¹:みなし効果は2003年度より廃止。ただし、2005年度から製品の使用時における環境負荷抑制効果（ ）内を公開。削減電力：1,711MWh[3,603MWh]

*²:産業廃棄物の（排出量）-（焼却・埋立量）で求めた処分量の削減量



2007年度目標達成度、2008年度目標設定

特に記載のある場合を除いて、対象はアンリツ(株)および国内グループ会社です。

CSR項目	2007年度目標	2007年度実績
CS活動 品質向上活動 (p10-11)	U.S.A.と日本の協働CS活動を軸にしたグローバルCS活動の立案と実行	アンリツ(株)およびグループ会社は： ・Webのグローバルなアーキテクチャ導入へ向けたプロジェクトを開始 ・U.S.A.で実施しているCS Prize制度を参考に、日本でもCS報奨制度を検討 ・お問い合わせに24時間以内に回答するU.S.A.のWeb窓口「talk to Anritsu」をアジア地域にも導入 ・出荷履歴の機番台帳をグローバルに一元化し、修理、校正品の納期を平均で1日短縮 ・グローバルCSアンケートを実施し、製品・品質・サービスなどについて各国で改善活動を実施。改善内容はCS NEWSでお客さまに報告 ・グローバルサービスとしてサービスに特化した独自のCS調査を実施し、改善活動を実施。CS調査結果は2006年度から1.8ポイント改善
コンプライアンス (p13)	①コンプライアンス推進のPDCAサイクルの整備 ②倫理アンケートの継続実施と充実化 ③企業倫理月間運動、コンプライアンス推進強化週間運動を核とした活動の継続的展開 ④ケーススタディ(事例)シートの継続的発行 ⑤各国の法律に準拠した行動規範を取りまとめ、従業員に周知・徹底(日本以外の拠点)	①倫理アンケートの結果分析から課題を抽出し、次のコンプライアンス推進活動のテーマに反映 ②問題点抽出を目的として設問を充実させ、10月～11月に実施 ③コンプライアンス推進強化週間運動(4月)、企業倫理月間運動(10月)を継続開催 ④毎月2件のシート発行に加え、ポスター版を掲示 ⑤アンリツ(株)が各現地法人に行動規範の作成を指導し、対応が進行中
情報セキュリティ (p14)	①重要な管理策の結果分析・評価 ②従業員教育・啓発活動の推進 ③事業継続活動の推進 ④日本以外の地域におけるグローバルセキュリティポリシー合致のための各施策の実施	①選択した重要管理策40項目の実施レベルを測定評価し、改善活動を展開 ②階層別教育(新人・技術者)の実施と幹部職・一般職向けセキュリティ講演会の開催 ③情報システムにおけるPDCAの実践(計画・訓練・検証・改善) ④アジア地域においてグローバルセキュリティポリシーに合致するITインフラの整備が完了
サプライチェーン (p15-16)	①調達方針およびお願い事項を、取引先に周知・理解していただき、サプライチェーン全体としてCSR活動の展開・推進を目指す環境づくり ②サプライチェーン強化に向けた海外取引先との連携強化(U.S.A.、U.K.)	①予算説明会や資材部担当執行役員名での通知による取引先への「調達基本方針」および「お願い事項」の伝達・周知と遵守要請 ②アンリツグループ全体での「調達基本方針」および「お願い事項」水平展開による共通化
人権尊重 従業員の尊重 (キャリア支援) (p16-17)	①障がい者雇用3か年計画の実行:2007年12月雇用率目標1.80%(アンリツ(株)) ②次世代育成支援行動計画に基づく活動(アンリツ(株)) ③少数派優遇制度(Affirmative Action Plan)に基づく採用計画の継続的実施(U.S.A.)	①障がい者雇用3か年計画の達成:2007年12月雇用率実績1.84%(アンリツ(株)) ②次世代育成支援行動計画に基づく活動(アンリツ(株)) ③少数派優遇制度に基づく採用の実施(U.S.A.)
従業員の尊重 (労働安全衛生) (p18)	①労働安全衛生法が定めるリスクアセスメントの改善手順について規程化を図り、従業員の安全と健康を確保(アンリツ(株)) ②年間活動計画に記した重点方針に「過重労働による健康障害予防対策」を追加して実施(アンリツ(株)) ③9月までに活動計画を作成し、計画に従い実行(U.S.A.、U.K.、中国)	①安全衛生委員会の承認のもと、「厚木地区リスクアセスメント実施規程」を制定し、安全衛生管理活動を充実化(アンリツ(株)) ②過重労働による健康障害予防対策として、対象者と産業界との面談を毎月実施。また、健康づくり運動として「THPウォーキング」を実施(アンリツ(株)) ③2007年11月に従業員との対話を実施し、管理職に対してフィードバック(U.S.A.)。四半期ごとに対話を実施(U.K.)。健康保険契約の内容を充実化(中国)
社会貢献活動 (p18-20)	①本社厚木地区での地域社会貢献活動の年間計画に基づく実施(アンリツ(株)) ②地域社会貢献活動の年間計画を策定(アンリツ(株)本社以外の国内製造拠点) ③社会貢献活動の方針および中期計画の策定 ④地域社会貢献・従業員ボランティア活動の継続的実施・支援(U.S.A.およびU.K.)、地域社会貢献活動の立案および実行(中国)	①厚木市からの要請事項や会社見学が増え、計画以上の活動を実施(アンリツ(株)) ②年間計画を独自に立案・実施(東北アンリツ、アンリツデバイス)。アンリツ(株)と協働して活動(アンリツ産機システム、アンリツネットワークス) ③社会貢献活動として中期計画を「あるべき姿」として策定。重点課題を(a)青少年教育との連携、(b)地域社会への貢献、(c)環境推進活動に設定 ④地域貢献イベント支援・寄付・育英基金の活動を継続し、「Green Day」イベントも開催(U.S.A.)。「Christmas Child Gift」を継続して実施(U.K.)。2008年度に設定(中国)
環境経営の推進 (p21-28)	①廃棄物の削減・リサイクル ・廃棄物(一般廃棄物+産業廃棄物)の発生量を実質売上高原単位で2006年度比2%削減【参考:2009年度までに6%削減】 ・紙のリサイクル量を133,400lb以上(U.S.A.) ②省資源・省エネルギー ・電気エネルギーの使用量を実質売上高原単位で2006年度比1%削減【参考:2009年度までに3%削減】 ・エネルギー使用によるCO ₂ 排出量を実質売上高原単位で2006年度比1%削減【参考:2009年度までに3%削減】 ・エネルギー使用量を売上高原単位で2003年度から2006年度の平均比で10%削減(U.S.A.) ・紙の購入および使用量を2006年度比10%削減(U.S.A.) ③エコプロダクツ ・開発製品の中で環境配慮型製品の占める割合:70%以上【参考:2008年度までに80%以上開発】 ・開発製品の中で従来機種比省資源10%以上の機種の占める割合:30%以上(対象項目:体積、質量、分解時間、消費電力) ・開発製品の中で従来機種比消費電力改善率30%以上の機種の占める割合:20%以上 ④維持監視項目 ・ゼロミッションの維持:埋立率1%以下 ・無機系排水の自主管理基準超過ゼロの維持:0件	①廃棄物の削減・リサイクル ・廃棄物の発生量は、実質売上高原単位で14%増加 注:予定外の有機汚泥の発生量があり、達成できなかった。年度中途で上記原因の是正処置を行った後、本目標値を見直し、修正した目標(+16%以内に抑える)は達成 ・紙のリサイクル量は131,849lbにとどまった(U.S.A.) ②省資源・省エネルギー ・電気使用量は、実質売上高原単位で4%削減 ・CO ₂ 排出量は、実質売上高原単位で5%削減 注:省エネ設備の導入やクールビズ、ウォームビズを含めた地球温暖化防止活動を推進し、電気使用量およびCO ₂ 排出量の削減目標をクリア ・エネルギー使用量を売上高原単位で2003年度から2006年度の平均比で46%削減(U.S.A.) ・紙の購入および使用量を2006年度比20%削減(U.S.A.) ③エコプロダクツ ・環境配慮型製品の占める割合:74% ・省資源10%以上の機種の占める割合:79% ・消費電力改善率30%以上の機種の占める割合:53% 注:特に省資源10%以上の機種開発に関わる目標で年度目標を大きく上回った。 ④維持監視項目 ・産業廃棄物と一般廃棄物の埋立率:0% ・自主管理基準超過件数:0件 注:各項目とも維持されていた。

()内は関連記事の該当ページを示します。U.S.A.とはAnritsu Company(アメリカ)、U.K.とはAnritsu EMEA Limited(イギリス)、中国とはAnritsu Company Limited(香港)を表します。



評価 ◎：目標を大幅に超えて達成 ○：達成 △：達成率80%以上 ×：未達成

2007年度達成度	CSR項目	2008年度目標
○	CS活動 品質向上活動 (p10-11)	アンリツ(株)およびグループ会社は： ①グローバルWebの構築 ・グローバルに一元化したWebを作成し、2009年3月を目処に提供 ②グローバルCSアンケート調査の結果に基づく継続的な改善活動 ・CSマニュアルの改善、環境に配慮した梱包、納期短縮などを行い、顧客満足度指数(CSI)75点を目指す(日本) ・CS調査・分析を行い、有効で効率的な販売促進策を立案・実施(U.S.A.) ③グローバル・サービスのCS調査結果に基づく改善活動を実施 ・修理、校正平均期間5日を目指す
○ ○ ○ ○ △	コンプライアンス (p13)	①コンプライアンス推進に関する目標管理の継続強化 ②アンリツグループ行動規範改定の検討 ③ヘルプラインの見直し・充実化 ④各国で法律に準拠した行動規範の作成を継続(日本以外の拠点)
○ ○ ○ ○	情報セキュリティ (p14)	①重要管理策40項目の継続的評価と改善活動 ②バリューチェーンにおけるセキュリティガバナンスの推進 ③従業員教育・啓発活動の推進 ④事業継続活動の継続的推進 ⑤グローバルなWebセキュリティポリシーの策定と実施
○ ○	サプライチェーン (p15-16)	『調達基本方針』および『お願い事項』の伝達対象取引先の拡大と、そのための伝達手段の検討・構築
○ ○ ○ ○	人権尊重 従業員の尊重 (キャリア支援) (p16-17)	①障がい者雇用：障がい者雇用率の維持・向上、障がい者受入れ施設の充実化、障がい者の積極的な採用(アンリツ(株)) ②従業員尊重：ファミリー・フレンドリーな職場環境の実現(アンリツ(株)) ・所定外労働時間の削減・男性にも利用できる育児休暇等、制度の整備・職場の雰囲気づくりなど、両立支援関連制度の利用環境の整備 ③上記①と②を含めたアンリツ(株)の取り組みを国内アンリツグループ内で情報共有化 ④従業員との対話の継続の実施と、キャリア支援策策定およびその実施(U.S.A., U.K., 中国)
○ ○ ○	従業員の尊重 (労働安全衛生) (p18)	①年間活動計画に記した重点方策12項目を確実に実施(アンリツ(株)) ②「労働者の心の健康保持増進のための指針」に基づき、メンタルヘルス不全者発生を防止(アンリツ(株)) ③上記①と②を含めたアンリツ(株)の取り組みを国内アンリツグループ内で情報共有化 ④従業員との対話を継続的に進め、労働安全衛生の環境整備施策を計画・実施(U.S.A., U.K., 中国)
○ ○ ○ △	社会貢献活動 (p18-20)	①本社厚木地区での地域社会貢献活動の年間計画に基づく実施。新たに、近隣自治会との交流活動を予定(アンリツ(株)) ②アンリツ(株)および国内グループ会社の社会貢献活動の年間計画の策定 ③社会貢献中期計画に沿った活動の定着。(a)青少年教育との連携、(b)地域社会への貢献、(c)環境推進活動の推進 ④地域社会貢献・従業員ボランティア活動の継続の実施・支援(U.S.A.およびU.K.)、地域社会貢献活動の立案および実行(中国)
× △ ◎ ◎ ◎ ◎ ○ ◎ ○ ○ ○ ○	環境経営の推進 (p21-28)	①廃棄物の削減・リサイクル ・廃棄物(一般廃棄物+産業廃棄物)の発生量を実質売上高原単位で2006年度比2%削減 【参考：2010年度までに6%削減】 ・紙のリサイクル量を2007年比10%削減(U.S.A.) ②省資源・省エネルギー ・電気エネルギーの使用量を実質売上高原単位で2006年度比2%削減 【参考：2010年度までに4%削減】 ・エネルギー使用によるCO ₂ 排出量を実質売上高原単位で2006年度比2%削減 【参考：2010年度までに4%削減】 ・エネルギー使用量を売上高原単位で2007年度比2%削減(U.S.A.) ・2007年度比で紙の購入および使用量を10%、水使用量を10%削減(U.S.A.) ③エコプロダクツ ・開発製品の中で環境配慮型製品の占める割合：80%以上 ・開発製品の中で従来機種比省資源10%以上の機種の占める割合：30%以上(対象項目：体積、質量、分解時間、消費電力) ・開発製品の中で従来機種比消費電力改善率：30%以上の機種の占める割合：20%以上 ④維持監視項目 ・ゼロエミッションの維持：埋込率1%以下 ・無機系排水の自主管理基準超過ゼロの維持：0件 注：環境目標についての補足 目標値の見直し：①廃棄物の削減目標に関しては2007年度に初期目標が達成できなかったため1年遅れて初期目標2%削減(2010年度に6%削減)に取り組みます。②CO₂排出量、電気使用量の削減目標に関しては2007年度に2009年度までの目標を達成しましたが、原単位は業績により変動しやすいため初期目標を継続(毎年1%削減目標をアップ)して取り組みます。



ステークホルダーの皆さまのご意見・ご感想

アンリツは、ステークホルダーの皆さまの期待・関心が高く、かつアンリツの企業価値向上へのインパクトが大きい「CSR重点課題」を特定し、より戦略的な取り組みを進めています。

CSR重点課題の特定

アンリツでは、次の手順でCSR重点課題を特定しています。まず、CSR報告書2007に掲載した課題項目に加えて、ステークホルダーのご意見に基づく新たな課題項目を抽出しました。そして、これらの項目を「ステークホルダーの期待・関心度」を縦軸とし、「アンリツの企業価値向上への影響度」を横軸とするマッピング図にプロットし、重点的に取り組むべきものを明らかにしました。

こうして特定した項目については、CSR推進委員会のメンバーが審議・承認し、取り組みを進めるとともに、当報告書に活動内容を掲載しています。

「ステークホルダーの期待・関心度」を認識する対話機会

- 日頃のIR活動、顧客訪問、従業員啓発活動、地域での懇談会など
- グローバルCS調査(p10)、内部統制アンケート(p12)、倫理アンケート(p13)、IRアンケート(p15)、環境意識調査(p23)、CSR専門家団体への発表会、CSR報告書のアンケート
- 外部団体からの各種アンケート、メディアによる報道など

注：()内は、関連記事の該当ページです。



CSRは日々の積み重ねであることを発見

国際基督教大学
教養学部社会科学科 2008年卒
小松 巧実 様

「CSR経営」をテーマにした卒業論文制作のために、アンリツさんをヒアリングさせていただきましたが、学生にも対話機会を設けていることに、ステークホルダーとのコミュニケーションを重視する姿勢が現れていると思いました。実際にお話を聞き、CSRは机上の理論なのではなく、日々少しずつ積み重ねていく取り組みなのだ気づかされました。また、複数の方にお話を聞きましたが、どなたも課題をしっかりと共有されていてブレがなく、良い企業になるためには皆が同じベクトルを向いている必要があるのだと感じました。アンリツさんならではのCSRに期待しています。

ステークホルダー別のアンリツのCSR重点課題

ステークホルダー	課 題	該当ページ
全体	倫理・コンプライアンス活動の継続	13
	情報資産管理教育、グローバル・ITセキュリティ、BCPの推進	14
お客さま	安全・安心経営、製品サービス グローバルWebの構築	7,8 10
株主・投資家	株主価値向上	15
仕入先・協力会社	CSR調達の環境整備 グリーン調達監査対応機種の拡大	15,16,25 25
従業員	グローバルな行動規範	13
	障がい者雇用推進	16
	次世代育成支援	16
	日本以外での従業員尊重計画	17
	労働安全衛生への取り組み	18
	長時間残業の抑制	18
地域社会	アンリツの地域貢献活動の計画・実施 本社以外と日本以外での地域貢献活動 実施、芸術・スポーツ・教育等の支援	18,19,20
国際社会	NPOとの対話	20
地球環境	エコプロダクツの開発	9,26,27
	地球温暖化防止の取り組み、廃棄物削減 とリサイクル、有害物質の管理・削減	24



従業員は外部の視点を持てる「社会人間」に

経済人コー円卓会議日本委員会
専務理事 事務局長
関西学院大学大学院
経営戦略研究科准教授
石田 寛 様

アンリツは、個々の部門や組織におけるCSRへの取り組みでは成果を出していると思います。これからは、それらを戦略的に落とし込んでいく段階だと思います。従業員の方には、会社人間にならず、外部の視点でアンリツを見ることが出来る「社会人間」になっていただきたいと思います。そのためには、さまざまな外部ステークホルダーに向けて、自社を説明する機会が有効です。これにより、自社を客観的に捉えられるとともに、社会がアンリツに求めていることもわかり、何をすべきかが明確になっていきます。自社の強みと課題、そして社会からのニーズ、この両面からコミュニケーションとマネジメントを行っていくことで、より素晴らしい新たな展望が見えてくるのではないのでしょうか。



グローバル・コンパクト (GC) の原則と関連記事の対照表

アンリツが、2007年度に実施したCSR活動を国連グローバル・コンパクトが掲げる10原則に照らして整理すると、以下のようになります。なお、昨年行ったアンリツのGCへの報告は、「Notable COP (特筆すべき活動報告)」に選定されました。



※グローバル・コンパクト (Global Compact): 人権、労働、環境および腐敗防止に関する10原則を支持する団体の集まりです。

1999年1月に開かれた世界経済フォーラムにおいて、コフィー・アナン前国連事務総長が提唱し、2000年7月にニューヨークの国連本部で正式に発足しました。

グローバル・コンパクト10原則			2007年度の主な取り組み	該当ページ
共通		グローバル・コンパクト10原則全体	・ 内部統制システムを構築中です。	12
			・ コンプライアンス推進施策として、①アンリツ行動規範の周知徹底、②階層別教育をはじめとする社内教育・啓発、③倫理アンケートを通じたさまざまなリスクの回避、④社内外のヘルプラインによる、社内の倫理法令違反の防止とより働きやすい職場環境を目指しています。	13
人権	原則1	企業はその影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。	・ 取引先に対し人権保護の法令遵守を依頼しました。	16
			・ 従業員に対する人権教育を実施しました。	16
			・ 職場における労働安全衛生を確保する活動を実施しました。	18
労働	原則2	人権侵害に加担しない。	・ 取引先に対して人権侵害に加担しないように依頼しました。	16
	原則3	組合結成の自由と団体交渉の権利を実効あるものにする。	・ ワークライフバランスを図るため、従業員の要請に基づき労働環境の整備に努めています。	16
労働	原則4	あらゆる形態の強制労働を排除する。	・ 取引先に対して強制労働への加担禁止を依頼しました。	16
	原則5	児童労働を実効的に廃止する。	・ 取引先に対して児童労働への加担禁止を依頼しました。	16
	原則6	雇用と職業に関する差別を撤廃する。	・ 社内外との連携を進め、法定障がい者雇用率を計画通り達成しました。	16
			・ 採用のボーダーレス化とグローバル社員の育成を進めました。	17
環境	原則7	環境問題の予防的なアプローチを支持する。	・ エコファクトリーおよびエコオフィスの活動を推進しました。	24, 25
			・ 環境会計を継続的に実施しました。	28
	原則8	環境に関して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる。	・ 環境経営理念についてコミットしました。	22
			・ エコマインドの活動を推進しました。	23
			・ 地球温暖化防止の取り組みを推進しました。	24
環境	原則9	環境にやさしい技術の開発と普及を促進する。	・ 環境配慮型製品の開発を促進しました。	9, 26, 27
	原則10	強要と賄賂を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。	・ ケーススタディシート発行により、従業員を啓発しました。	13
腐敗防止			・ 調達方針にて倫理概念に基づく行動を依頼しました。	16

CSR活動の新たなステージに向けて

アンリツ株式会社
代表取締役 専務 (執)
橋本 裕一



2008年4月、当社はCSR推進室をコーポレートコミュニケーション (CC) 部内のチームとして組織編成しました。アンリツグループは、誠実な企業活動を軸に社会の持続可能な発展にいかに関与しているか、自己評価のみならず、すべてのステークホルダーに説明責任を果たし、外部からの評価を求めています。そのために、内外の

広報活動を行うCC部の一員として切磋琢磨しながら、一貫性、公平性、透明性を持つ情報発信を行っていきます。

グローバルCSRは引き続き重要な課題です。今回もグローバル・コンパクトの原則に照らしてCSR活動を検証しました。またJ-SOXの観点からは、グループ各社の内部統制基盤を検証しその強化に取り組んでいきます。このアプローチはリスクマネジメント経営の継続的改善を促し、アンリツのCSR活動の発展にも貢献する取り組みでもあります。

アンリツグループは、現在取り組んでいる「経営革新2008」を通して、グローバルな経営活動をより発展させ、ステークホルダーの皆さまからアンリツブランドに大きな支持を得られるように努力していく所存です。今後ともご支援をお願い申し上げます。



「アンリツCSR報告書2008」第三者コメント

本コメントを執筆する前に橋本代表取締役・専務（執）をはじめ関係者の方々と意見交換をさせていただきました。そこで指摘させていただいた点について、後日「修正」、「来年度の報告書へ反映」、「今後の課題」などの回答をいただきました。こうした対応こそが、意味ある報告書や効果的なCSR活動に結びつくと思われ、改めて実感しました。

本報告書の大きな特色は、十分議論された編集方針に沿って忠実に構成、執筆されている点にあります。そのため、34頁という頁数にもかかわらず読者への訴求力は大きなものとなっています。また、「CSR重点課題の特定」のプロセスの記載は、先進的であり大変好感が持てます。ただ、今回は2つの軸によって課題を特定していますが、その中に社会的課題とアンリツの事業活動との関連性という視点を盛り込まれることを期待します。

アンリツは2006年3月にグローバル・コンパクトに賛同されました。グローバル・コンパクトでは、原則を企業の戦略、文化、日常の活動に反映するように企業活動を変革し、その状況を報告書などで報告することが求められています。しかしながら、わが国の賛同企業の報告書には整理された形での報告を見ることは稀です。本報告書では原則とアンリツの取り組みが整理され、原則が企業行動の変革を促していることが理解できます。

完成度の高い報告書ですが、さらなる改善に向けて3点申し上げます。第1は、前回も申し上げましたが、バウンダ

リーの拡大です。特にグローバルCSRを推進されていることから必須の課題といえましょう。環境データの集計などで多くのバリエーションが推察されますが、「グローバル環境会議」が開催されていますので早急に対応を統一化することを期待します。第2は、『あるべき姿（達成像）』に対応した指標の作成です。これまで数社がCSR活動やあるべき姿に関する指標を作成していますが、完成度は十分ではありません。しかし、定性的な記述に比べ理解しやすく、進捗度も分かります。作成は決して容易ではありませんがチャレンジしていただきたいと思います。指標は、従業員のCSRへの理解、取り組みの促進に寄与することは必至と考えます。

第3は、Webの活用です。頁数の割には訴求力があると申し上げましたが、その限界は否めません。現在、環境情報については詳細情報がホームページに掲載されていますが、社会性情報についても同様の取り組みをしていただきたいと思います。

特定非営利活動法人
循環型社会研究会 代表
山口 民雄



循環型社会研究会：次世代に継承すべき自然生態系と調和した社会のあり方を地球的視点から考察し、地域における市民、事業者、行政の循環型社会形成に向けた取り組みの研究、支援、実践を行うことを目的とする市民団体。 URL:<http://www.nord-ise.com/junkan/>

編集担当より

この報告書をまとめるに当たって、編集方針（p1）に挙げている点のほかに、編集担当として、次の点に心掛けました。①報告内容を絞ること、②専門用語を減らすこと、③多くの方々のご意見・ご感想をコラム記事として掲載することなどです。皆さまはどのようにお感じになったでしょうか。アンケート用紙にて、忌憚のないご意見、ご感想をいただければ幸いです。

循環型社会研究会の山口代表とは、第三者コメント執筆に先立って会談を行い、さまざまなご意見・ご指摘をいただきました。特に、①CSR重点課題の特定プロセスについて具体的に記述すること、②社会性報告をより充実させ、重要な社会的課題への取り組みを記載すること、

③CSR活動の評価指標を設定することが、重要なご助言だったと理解しています。本報告書ではご指摘事項に十分にお応えしているとは言えません。アンリツグループのCSR活動を一段と進化させるため、課題解決に向けた取り組みを強化してまいります。

『アンリツCSR活動のあるべき姿』に向けた活動状況報告（p5,6）については、従来からの目標（p29,30）との調整が難しく、いまだ徹底しきれていない部分があると反省しています。各CSR項目の主幹部門と国内外のグループ関連会社のCSR担当とともに、次年度に向けて改善していく所存ですので、何卒ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

会社および事業概要

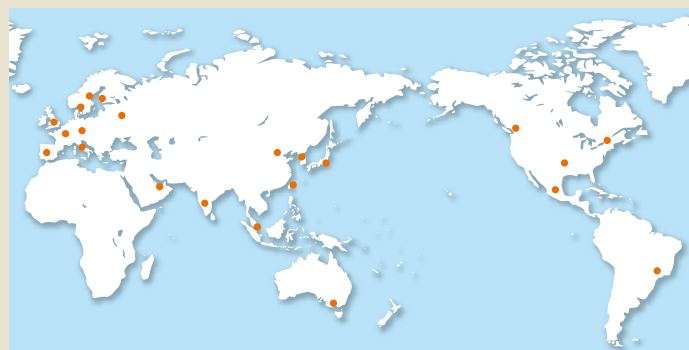
アンリツグループは、110年を超える歴史を通して蓄積してきたオリジナル&ハイレベルな技術を基盤に、計測器・情報通信・産業機械などの分野で事業を展開しています。

事業概要

主たる事業の計測器では、世界各国に開発・製造・販売拠点を構え、光・デジタル、IP、ワイヤレス計測技術に加え、ネットワークサービスの品質保証も可能とするソリューションを提供。固定電話網、データ通信網、そして携帯電話網がIP技術で統合される次世代ネットワーク“NGN”の構築に貢献しています。

また、道路・河川の公共監視システムや映像配信技術に加え、食品・医薬品、デジタル製品に搭載されるプリント基板の品質保証ソリューションなども提供。安全・安心で快適な社会づくりを支える事業を幅広く展開しています。

(当報告書 p7～p9のハイライト記事をご参照願います。)



国内グループ会社

アンリツ産機システム株式会社、
東北アンリツ株式会社、アンリツ計測器カスタマーサービス株式会社、
アンリツデバイス株式会社、アンリツネットワークス株式会社、
アンリツプレジション株式会社、アンリツエンジニアリング株式会社、
アンリツ興産株式会社、アンリツテクマック株式会社、
株式会社アンリツプロアソシエ、アンリツ不動産株式会社

海外グループ会社

Anritsu Company (U.S.A.)、Anritsu Instruments Company (U.S.A.)、
Anritsu Electronics Ltd. (Canada)、Anritsu Eletrônica Ltda. (Brazil)、
Anritsu Company S.A. de C.V. (Mexico)、Anritsu Ltd. (U.K.)、
Anritsu EMEA Ltd. (U.K.)、Anritsu S.A. (France)、
Anritsu Instruments S.A.S. (France)、Anritsu GmbH (Germany)、
Anritsu S.p.A. (Italy)、Anritsu Solutions S.p.A. (Italy)、
Anritsu AB (Sweden)、Anritsu AB (Finland)、Anritsu A/S (Denmark)、
Anritsu EMEA Ltd. - Oficina de Representación en España (Spain)、
Anritsu EMEA Ltd. - Representation office (Russia)、
Anritsu EMEA Ltd. - Dubai Liaison Office (U.A.E.)、
Anritsu Company Ltd. (China)、Anritsu Company, Inc. (Taiwan)、
Anritsu Corporation, Ltd. (Korea)、Anritsu Pte. Ltd. (Singapore)、
Anritsu Pte. Ltd. India Branch Office (India)、Anritsu Pty. Ltd. (Australia)



本社所在地：神奈川県厚木市恩名5-1-1

創業：1895年

資本金：140億49百万円*1

売上高：1,004億85百万円*2

株主数：17,262名*1

従業員数：3,963名*3

仕入先・協力会社数：1,079社*4

*1. 2008年3月31日現在 *2. 連結：2008年3月期 *3. 連結：2008年3月31日現在
*4. 2008年3月31日現在。アンリツ(株)が対象

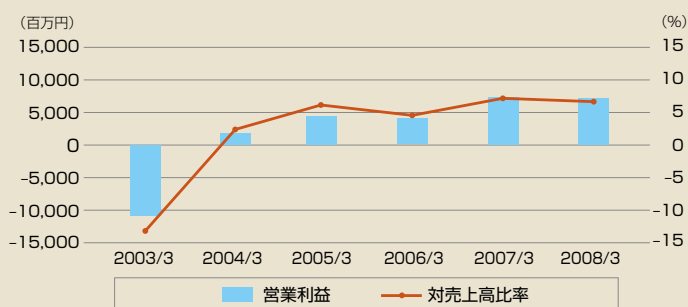
アンリツ(株)従業員データ

		2005年度	2006年度	2007年度
従業員数 ()は幹部職数で内数	男性	1,063 (251)	980 (232)	938 (224)
	女性	134 (4)	134 (4)	136 (4)
	計	1,197 (255)	1,114 (236)	1,074 (228)
平均年齢	男性	41.7	41.8	41.7
	女性	33.7	34.6	34.9
	計	40.8	41.0	40.8
平均勤続年数	男性	18.4	18.3	18.1
	女性	11.9	12.2	12.1
	計	17.7	17.6	17.3
年間所定労働時間数		1,875.50	1,860.00	1,867.75
平均年次休暇取得日数		14.6	14.3	14.9
育児休暇取得者数		7	10	8
雇用延長者数 (定年到達者の継続雇用)	対象者数	13	23	32
	延長者数	10	17	27

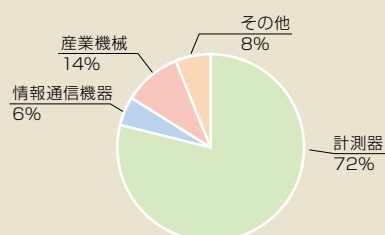
グローバルに見た女性の活躍状況

	日本	米州	EMEA	アジア他	グローバル計
全従業員に占める女性従業員の比率 (女性従業員数/全従業員数)	12%	31%	24%	31%	18%
男性を100とした女性の幹部職登用率 ((女性幹部職数/女性従業員数)/(男性幹部職数/男性従業員数))	8%	48%	76%	53%	44%

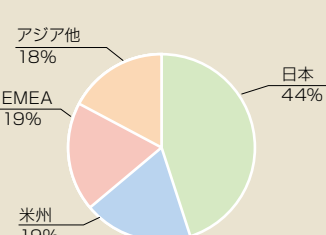
営業利益/対売上高比率



事業別売上高比率 (2008年3月期)

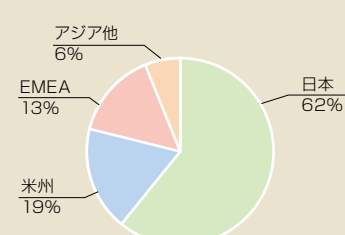


地域別売上高比率 (2008年3月期)



EMEA: Europe, the Middle East and Africa の略、
欧州・中近東・アフリカの意

地域別従業員比率 (2008年3月期)





アンリツ株式会社

〒243-8555 神奈川県厚木市恩名5丁目1番1号
TEL : 046-223-1111

<http://www.anritsu.co.jp/>



環境にやさしい大豆油インクで
印刷しています

再生紙を使用しています

皆さまのご意見・ご感想をお聞かせください。

『アンリツCSR報告書2008』をお読みいただき、誠にありがとうございました。

私たちは、この報告書の中で、アンリツグループのCSRの取り組みをできるだけ具体的に、わかりやすくご報告することに努めました。しかし、まだ不十分な点多々あるかと思います。

皆さまのご助言を参考に、今後いっそうの改善を続けていきたいと考えています。



本紙裏面のアンケート用紙に忌憚のないご意見・ご感想などをご記入の上、FAXにてご投函いただければ幸いです。なお、お寄せいただいたご意見・ご感想は、今後の報告書に掲載させていただく場合がございます*。

*お名前など個人情報は掲載いたしません。

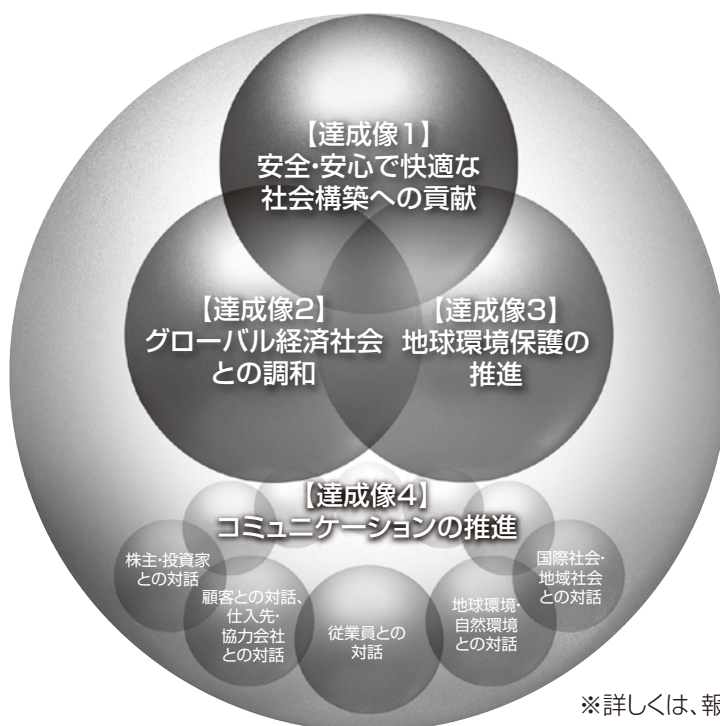
【お問い合わせ先】

アンリツ株式会社 コーポレートコミュニケーション部 CSR 推進チーム

〒243-8555 神奈川県厚木市恩名5丁目1番1号 TEL : 046-296-6514 FAX : 046-225-8384

www.anritsu.co.jp

経営品質向上に向けたCSR活動



※詳しくは、報告書のp4をご参照ください。

【個人情報のお取り扱いについて】

- お名前、ご住所、ご連絡先などの個人情報の記入欄を設けておりますが、それらの個人情報は今後の報告書発送以外の目的に使用することはありません。また、ご本人の同意なく第三者に提供することも一切ございません。
- ご記入いただいたアンケート内容は、皆さまのご回答をまとめた上で、アンケート結果全体として第三者に開示することがありますが、ご回答者個人が特定される形での開示は一切いたしません。
- ご記入いただいたアンケート内容は、合理的な範囲内で厳重に安全管理いたします。
- 本アンケートの情報処理業務や報告書の発送業務を社外に委託する場合には、委託先とは個人情報保護契約を結ぶなどにより、情報の取り扱い、および安全管理には十分配慮いたします。

お手数ですが、アンケートにご記入の上、右の宛先にFAXいただきますようお願い申し上げます。 **FAX:046-225-8384**

Q1: アンリツCSR報告書2008をご覧になってどのようにお感じになりましたか？ 理由もお聞かせください。

☐ とてもわかりやすい ☐ まあわかりやすい ☐ 普通 ☐ ややわかりにくい ☐ わかりにくい

理由

Q2: どの内容に興味をお持ちになりましたか？ 理由もお聞かせください。(複数回答可)

- ☐ 目次、編集方針 ☐ 経営理念・ビジョン・方針、企業行動憲章 ☐ ごあいさつ ☐ アンリツCSR 活動のあるべき姿
☐ 『アンリツCSR 活動のあるべき姿』に向けた進捗 ☐ ハイライト(事業編):安全・安心で快適な社会の構築
☐ お客さまとの対話:グローバルWebの構築 ☐ お客さまとの対話:営業教育の強化 ☐ ハイライト(社会編):グローバル経済社会との調和
☐ 企業倫理・コンプライアンスへの取り組み ☐ 情報セキュリティ管理、BCP ☐ 株主・投資家、仕入先・協力会社との対話
☐ 障がい者雇用・両立支援 ☐ 人材育成、キャリア支援 ☐ 労働安全衛生 ☐ 企業市民としての取り組み
☐ ハイライト(環境編):地球環境保護の推進 ☐ 地球環境とともに ☐ エコマネジメント、エコマインド ☐ エコオフィス、エコファクトリー
☐ エコプロダクツ:環境に配慮した製品開発 ☐ エコプロダクツ:エクセレントエコ製品 ☐ 環境負荷マスマバランス、環境会計
☐ 2007年度目標達成度、2008年度目標設定 ☐ ステークホルダーの皆さまのご意見・ご感想
☐ グローバル・コンパクトの原則とアンリツの取り組み ☐ 第三者評価 ☐ 編集担当より ☐ 会社および事業概要

理由

Q3: 今回の報告書について、よかった点・改善すべき点についてお聞かせください。

よかった点

改善すべき点

Q4: 当社のCSR活動について、どのように評価されますか？ 理由もお聞かせください。

☐ よくやっている ☐ まあよくやっている ☐ 普通 ☐ やや不十分 ☐ 不十分

理由

Q5: この報告書をどのような機会でお知りになりましたか？

- ☐ アンリツからの送付 ☐ 新聞・雑誌 ☐ 展示会・セミナー ☐ アンリツ・ホームページ ☐ アンリツ従業員
☐ その他 []

Q6: この報告書をどのような立場でご覧になりましたか？

- ☐ 株主・投資家 ☐ 金融機関 ☐ 製品のユーザー ☐ 仕入先・協力会社 ☐ 事業場などの近隣在住 ☐ 政府・行政関係 ☐ NPO・NGO
☐ 研究・教育関係 ☐ 報道関係 ☐ 環境、CSRの専門家 ☐ 企業の環境、CSR担当 ☐ 学生 ☐ 一般生活者
☐ アンリツおよびグループ各社の従業員・家族 ☐ その他 []

Q7: 情報量やデザイン・レイアウトについては、どのようにお感じになりましたか？ 理由もお聞かせください。

情報量

☐ 少ない ☐ やや少ない ☐ ちょうど良い ☐ やや多い ☐ 多い

理由

デザイン・レイアウト

☐ よい ☐ ややよい ☐ 普通 ☐ やや悪い ☐ 悪い

理由

Q8: アンリツに対するご意見・ご要望をお聞かせください。

●ご協力ありがとうございました。次回のCSR報告書の郵送を希望されますか。 ☐ 希望する ☐ 希望しない
ご希望の方は、以下にもご記入ください。

お名前: 職業: 男・女 年齢 () 歳

ご住所 (〒 -)

ご連絡先 TEL: FAX: E-mail:

勤務先・部署・役職名/通学先・学部・学年:

発行日 2008年7月14日 お問い合わせ先 アンリツ(株) CSR推進チーム TEL: 046-296-6514 FAX: 046-225-8384